

第43回 ひたちなか市公共交通活性化協議会

次 第

と き 令和7年10月3日（金）午後2時から

ところ ひたちなか市役所 第3分庁舎

防災会議室1，2

1 開 会

2 会 長 挨 拶

3 新任委員紹介

4 議 事

（1）協議事項

①ひたちなか市地域公共交通網形成計画の一部改訂（案）について

②湊線鉄道事業再構築実施計画（案）について

③ひたちなか市地域公共交通計画の策定について（課題の整理について）

（2）その他

5 そ の 他

6 閉 会

第43回 ひたちなか市地域公共交通活性化協議会

令和7年10月3日(金) 午後2時
ひたちなか市企画調整課

本日の進行

1 開会

2 会長挨拶

3 新任委員紹介

4 議事

(1)協議事項

① ひたちなか市地域公共交通網形成計画の一部改訂について

② 湊線鉄道事業再構築実施計画の策定について

③ ひたちなか市地域公共交通計画の策定について(課題の整理について)

(2)その他

5 その他

6 閉会

本日の進行

1 開会

2 会長挨拶

3 新任委員紹介

4 議事

(1)協議事項

① ひたちなか市地域公共交通網形成計画の一部改訂(案)について

② 湊線鉄道事業再構築実施計画(案)について

③ ひたちなか市地域公共交通計画の策定について(課題の整理について)

(2)その他

5 その他

6 閉会

本日の進行

1 開会

2 会長挨拶

3 新任委員紹介

4 議事

(1)協議事項

① ひたちなか市地域公共交通網形成計画の一部改訂(案)について

② 湊線鉄道事業再構築実施計画(案)について

③ ひたちなか市地域公共交通計画の策定について(課題の整理について)

(2)その他

5 その他

6 閉会

本日の進行

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 新任委員紹介
- 4 議事**

(1)協議事項

- ① ひたちなか市地域公共交通網形成計画の一部改訂(案)について**
- ② 湊線鉄道事業再構築実施計画(案)について**
- ③ ひたちなか市地域公共交通計画の策定について(課題の整理について)

(2)その他

- 5 その他
- 6 閉会

湊線鉄道事業再構築事業の実施について

湊線の背景と事業実施の必要性

ひたちなか海浜鉄道湊線は、昭和19年の開業以来、茨城交通（株）が第一種鉄道事業者として運営してきたが、利用者の減少等により一時は廃線が検討されるに至った。

平成18年6月に湊線の存続のための協議会である「湊鉄道対策協議会」が発足し、さらに、平成19年1月には沿線住民を中心に「おらが湊鉄道応援団」が設立され、利用促進につながる活動が積極的に展開された。

そのような中、茨城交通（株）とひたちなか市に茨城県を加えた三者で協議を重ねた結果、平成20年4月1日に茨城交通（株）は鉄道部門を分社化し、ひたちなか市と茨城交通（株）が共同出資して発足した第三セクター「ひたちなか海浜鉄道（株）」に鉄道事業の譲渡を行い、湊線が存続することになった。

ひたちなか海浜鉄道（株）に移行後は、線路や車両などの設備更新について実質的な「みなし上下分離」となるよう事業構造を変更し、国の「鉄道施設総合安全対策事業費補助金」などを活用しつつ、市は県とともに継続的な支援を行ってきた。また、利用者の利便性向上及び利用促進策として、金上駅の列車交換設備の新設や新駅（高田の鉄橋駅・美乃浜学園駅）を設置するなど、持続的な利用者の増加を図ってきた。

しかしなお、今後、沿線住民の人口減少が進むことが予想され、再び鉄道運営の継続が困難となることが懸念されている。

そのため、湊線を将来にわたり持続可能な公共交通として維持していくためには、事業構造の変更を進め、更なる経営効率化とサービス向上の外、延伸事業などの実施による利用者の増加を図ることで、鉄道会社の再構築を実現し、運営基盤の強化を図っていく必要がある。

あわせて、延伸事業の実施により、国営ひたち海浜公園や大型商業施設、工業団地が立地する「ひたちなか地区」が鉄道で結ばれることになり、公共交通ネットワークの強化が図られることとなる。

① ひたちなか市地域公共交通網形成計画の一部改訂（案）について

改定の
目的

「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」第5条第5項に基づき、本計画を改定し地域公共交通特定事業を位置付けることで、事業実施のための「湊線鉄道事業再構築実施計画」の認定を国に申請できるようになる。

改定の
内容

「湊線鉄道事業再構築事業」を「地域公共交通特定事業」として本計画に位置付けます。

※本計画書P34に「9 地域公共交通特定事業」を追加

支援イメージ図

湊線鉄道事業再構築事業

<内容>

- 事業構造の変更
- 利便性向上施策の実施
- 維持修繕費の支援

【鉄道事業再構築実施計画】

「参考資料：別紙2 湊線鉄道事業再構築実施計画（案）」のとおりに

国への計画の申請

国による計画の認定

支援措置

鉄道事業再構築事業に係る費用は、国の社会資本整備総合交付金等の補助金を活用しながら、自治体が負担します。

② 湊線鉄道事業再構築実施計画（案）について

■ 計画策定の趣旨

◇ 湊線の持続と未来を見据えた経営基盤の強化

→ 沿線人口減少に伴う存続リスクに備え、持続可能な経営の見直しと経営基盤の強化を図る

◇ 地域公共交通ネットワークの強化

→ ローカル鉄道の利便性の向上などを通じて、地域公共交通ネットワークの強化を図る

◇ 国の支援を活用した計画的な推進

→ 公共交通計画(地域公共交通網形成計画)に特定事業(法第5条第5項)として位置付け、鉄道事業再構築実施計画について国の認定を受けることで、国の支援を受けながら計画的に推進

計画案の概要

(計画期間：R 8 年度～R 1 7 年度 (1 0 年間))

対象路線

ひたちなか海浜鉄道株式会社湊線
(勝田～(仮称)新駅2間：17.4 km)

事業構造の変更

「みなし上下分離方式」による、ひたちなか海浜鉄道の更なる経営安定化

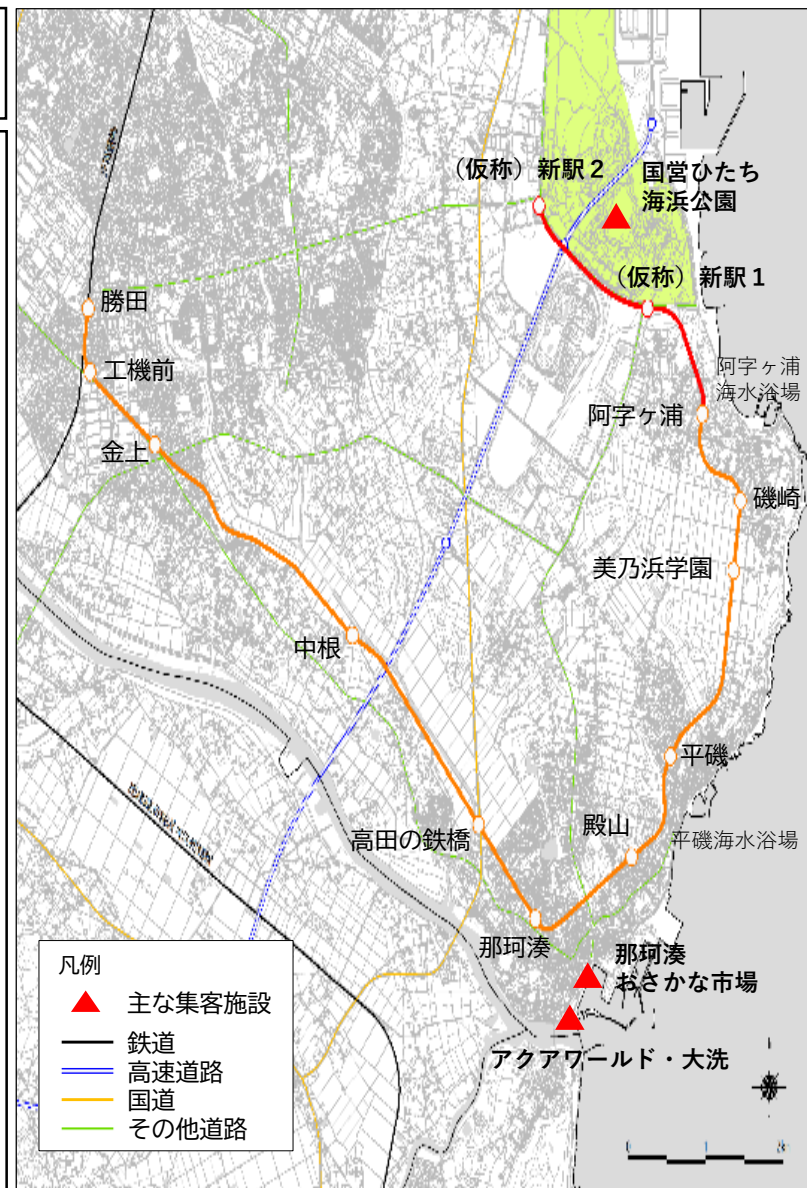
利便性向上施策の実施

- 国営ひたち海浜公園西口付近への延伸
- 阿字ヶ浦駅の列車交換設備の整備
- キャッシュレス券売機の導入など

地方公共団体等の支援

- 既存の鉄道施設等の設備更新及び維持修繕に要する費用の負担
- 延伸など利便性向上に係る整備費の負担
- 沿線地域における利用促進のための活動 など

主な取組内容



本日の進行

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 新任委員紹介
- 4 議事**

(1)協議事項

- ① ひたちなか市地域公共交通網形成計画の一部改訂(案)について
- ② 湊線鉄道事業再構築実施計画(案)について
- ③ ひたちなか市地域公共交通計画の策定について(課題の整理について)**

(2)その他

- 5 その他
- 6 閉会

協議事項

③ ひたちなか市地域公共交通計画の策定について(課題の整理について)

(1) 本日の目的

(2) 現状と課題の分析について

(ア) 本市の現況

(イ) アンケート調査の結果

(ウ) グループインタビューの結果

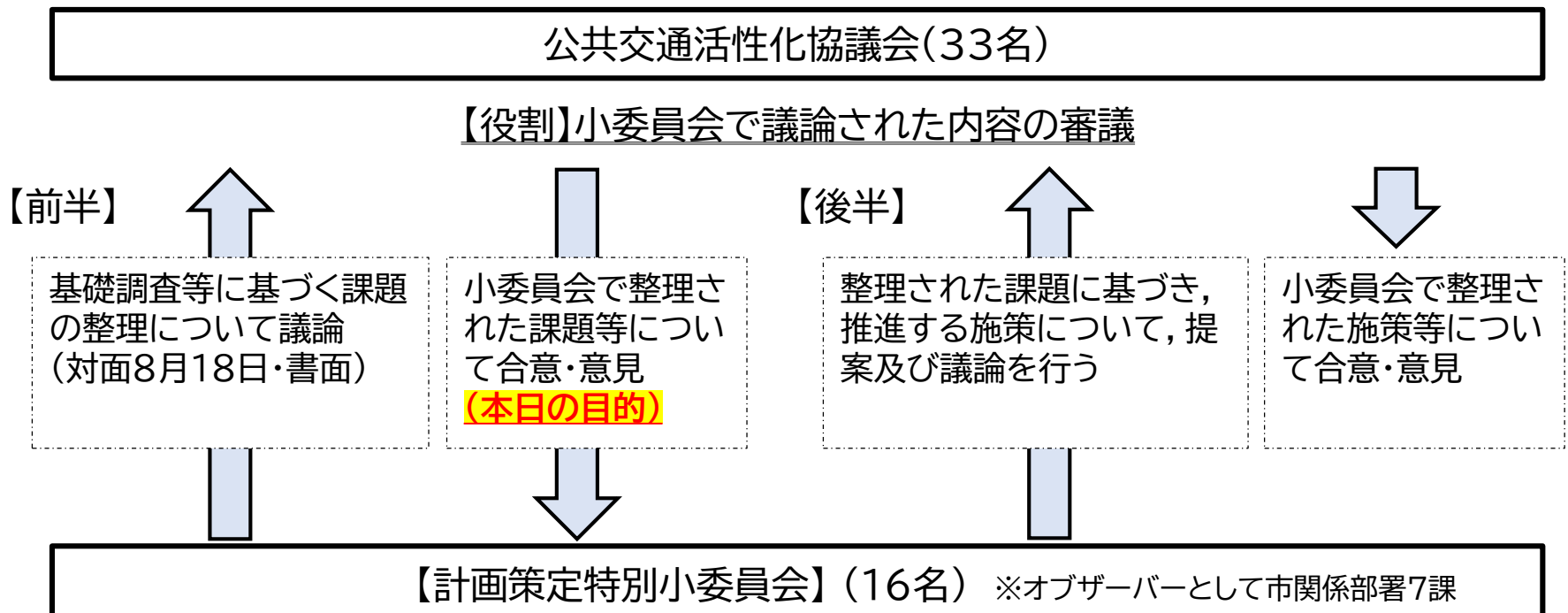
(エ) 計画策定特別小委員会での議論について

(3) 課題の整理について

(1)本日の目的

【これまでの経過】

- ・本市の土地利用状況や公共交通ネットワーク、客観データ等、現状の整理
- ・一般アンケート、高齢者アンケート、グループインタビュー等を実施
- ・第1回計画策定特別小委員会を開催（対面協議（8月18日（月）・書面協議）
→ 交通事業者、市民団体等の代表者、学識経験者とともに、課題の整理について意見交換



(2)現状と課題の分析について

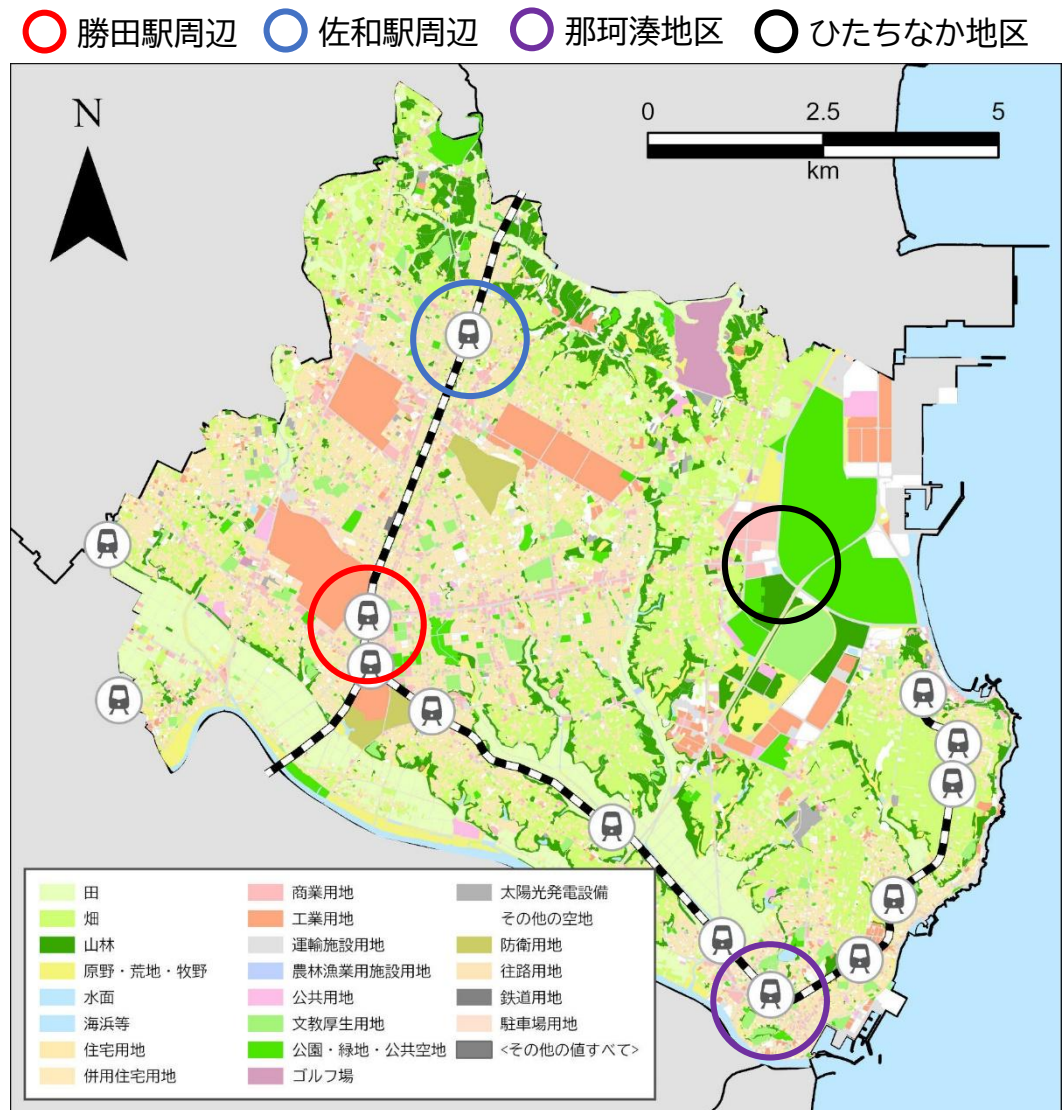
ア 本市の現況

【土地利用の現況】

ひたちなか市は、海拔30m前後の平坦な台地が広がり、可住地面積が広く確保されていることが特徴です。

この地形特性を活かし、住宅地は市内全域に分散して形成されており、新興住宅地と高齢化が進む既存団地が混在する都市構造となっています。

市内では、中心市街地(勝田駅周辺)・那珂湊地区・佐和駅周辺地区・ひたちなか地区の4つを都市拠点として位置づけ、それぞれの地域特性に応じた都市機能の集積を進めています。これらの拠点間は、鉄道やバス、幹線道路などにより連携されており、都市内の交流や回遊性を支える「都市内連携軸」が形成されています。



(2)現状と課題の分析について

ア 本市の現況

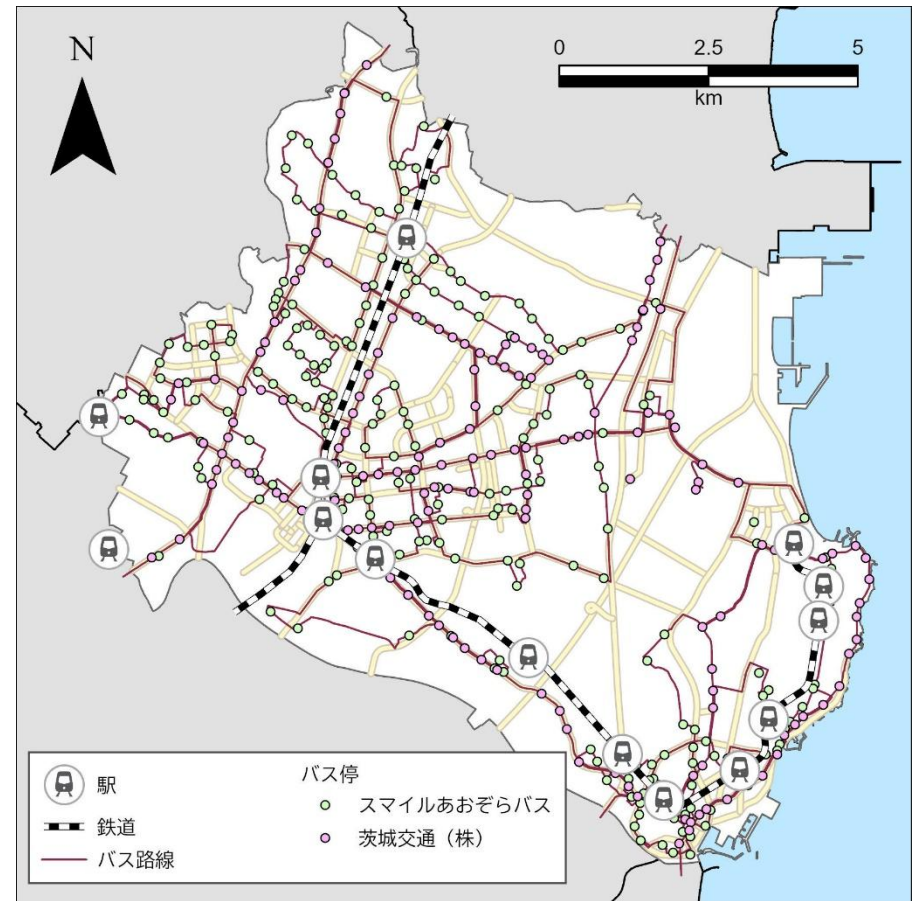
【市内の公共交通ネットワークの状況】

ひたちなか市の交通ネットワークは、鉄道・バス・道路が連携し、市内外の移動を支えています。

鉄道は、JR常磐線により首都圏から仙台まで広域が結ばれ、ひたちなか海浜鉄道湊線は、勝田駅を起点に中心市街地や観光地と接続しています。さらに今後は、国営ひたち海浜公園方面への延伸事業も計画されています。また、市西部ではJR水郡線が運行しています。

バスは、茨城交通の路線バスが、通勤・通学など、日常生活の移動を支える基軸として、広域移動と市内の身近な移動の両方を担い、「スマイルあおぞらバス」は、路線バスの運行が行き届きにくい地域での移動を補完しており、公共交通力バ－率(※)の向上にも寄与しています。

(※)駅やバス停から一定の距離の範囲に入った公共交通サービスを利用できるの人口割合



その他の交通モード	市内の公共交通	
○補助的交通	常磐線	2駅
一般タクシー	湊線	11駅
○特定の対象者の移動を支える交通	水郡線	2駅
福祉有償運送、スクールバス 幼稚園及び保育園の送迎バス 企業バス、買い物支援事業	路線バス	45系統 バス停数約160
	スマイル あおぞらバス	8路線 バス停数約280

(2)現状と課題の分析について

《ひたちなか市地域公共交通網形成計画のこれまでの主な取組》

- ・ **佐和地区とひたちなか地区との新規路線の検討**

⇒ 令和5年9月2日、JR佐和駅の橋上化に伴い東口が開設され、同日、スマイルあおぞらバス「勝田中央コース」が東口まで延伸。佐和地区とひたちなか地区を結ぶ新たな路線を整備。

- ・ **ひたちなか海浜鉄道の新駅設置**

⇒ 令和3年4月の「美乃浜学園」開校に合わせ、同年3月13日、平磯駅と磯崎駅の間に「美乃浜学園駅」が開業しました。

- ・ **スマイルあおぞらバスの充実・強化**

⇒ スマイルあおぞらバスは、平成29年以降、計6回のルートやダイヤの見直しを行ってきました。また、平成30年10月14日には「平磯・那珂湊市街地コース」を新設し、現在は全8コースで運行しています。

- ・ **運転免許返納者への対応**

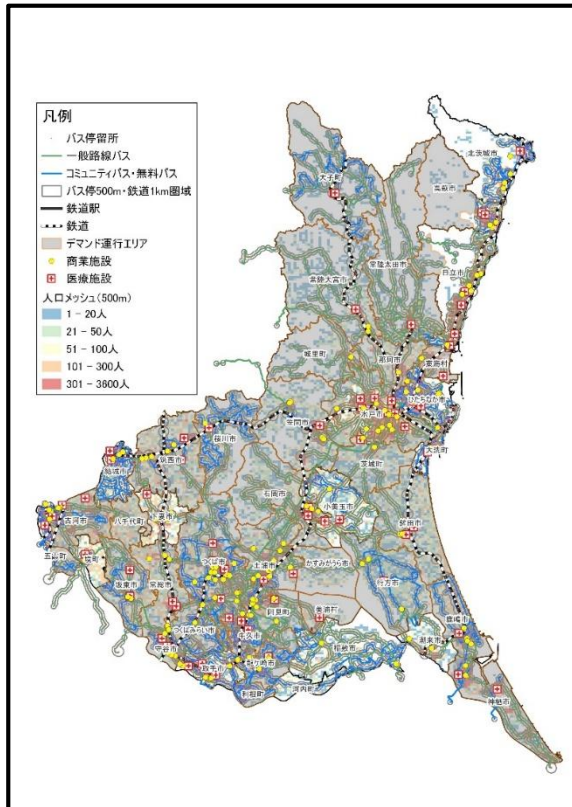
⇒ 運転免許返納者に対するコミバスの1年間乗車無料措置を実施したほか、令和6年度には利用促進策として、高齢者(いばらきシニアカードを所持する65歳以上の方)を対象に無料乗車を実施しました。

外23事業を実施

(2)現状と課題の分析について

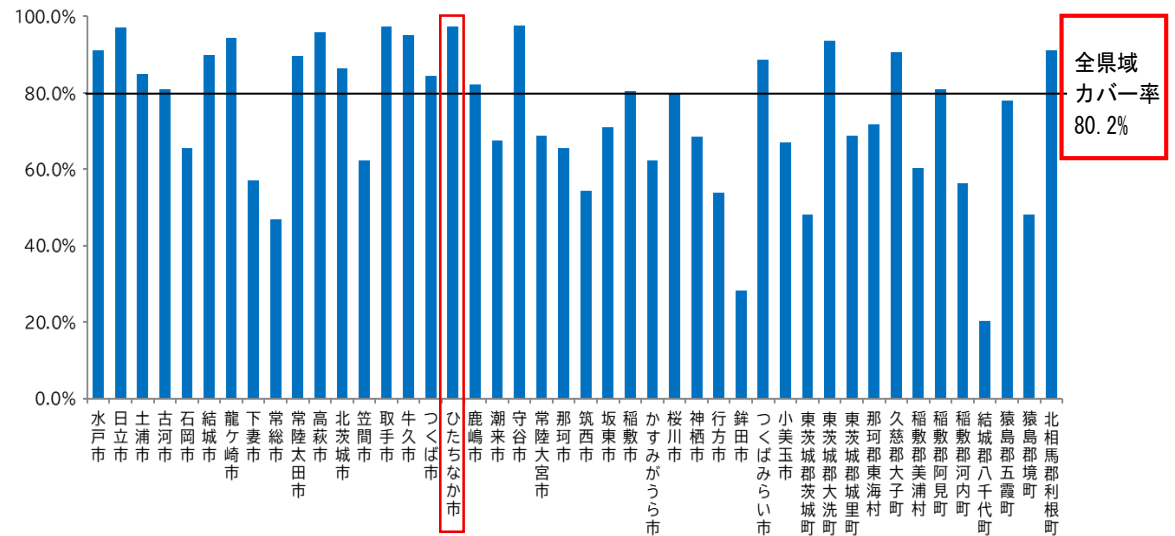
ア 本市の現況

◆本市総人口における公共交通カバー率(鉄道・路線バス・コミュニティバス ※デマンド交通除く)



県内総人口に対する **バス停500m・鉄道1km** 圏域における人口の割合

(参考2)各市町村の総人口に対する鉄道・バスのカバー率(令和2(2020)年度)



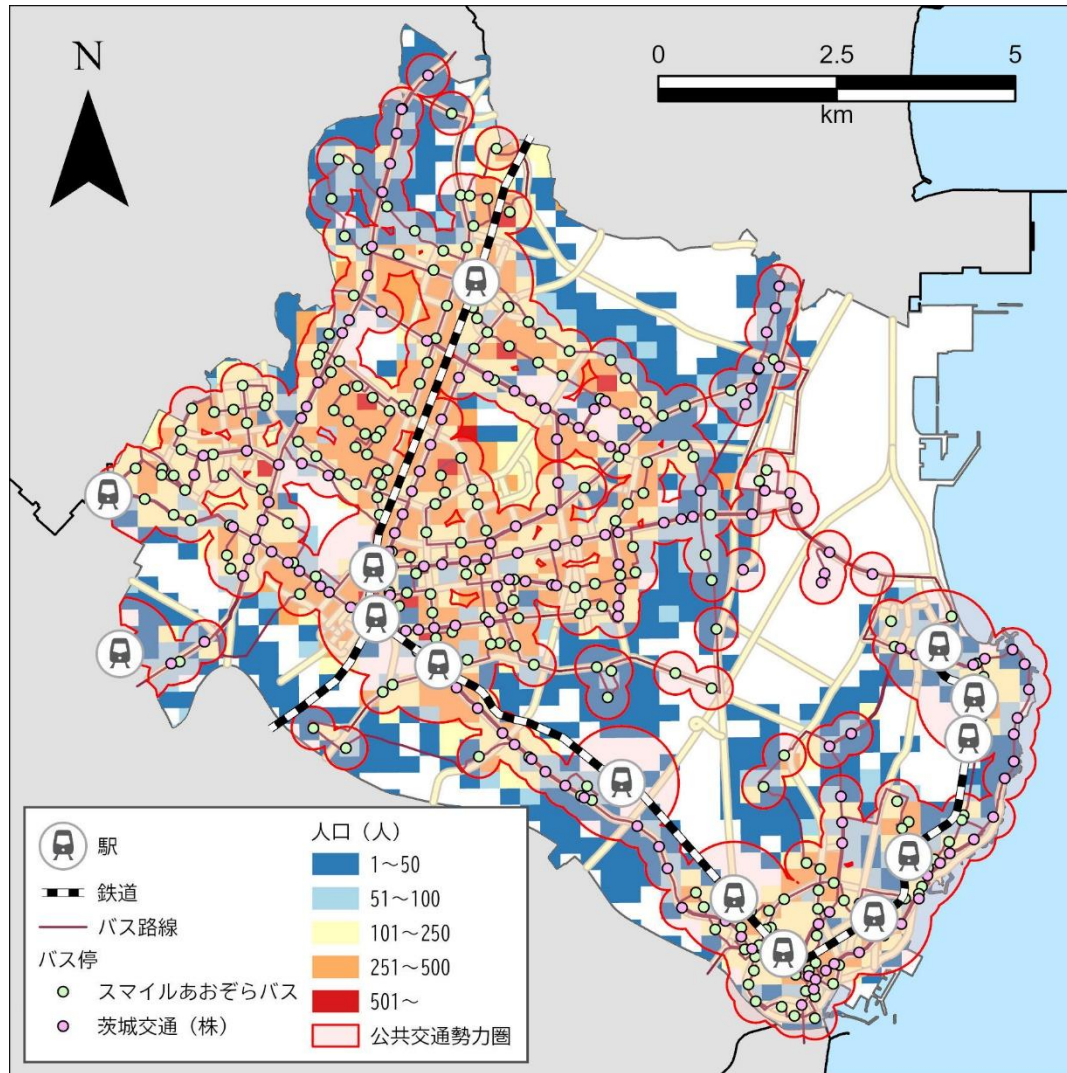
茨城県交通政策課より提供

【市総人口に対するバス停500m・鉄道1km圏域における人口の割合】

ひたちなか市 97.4% 守谷市(97.5%)に次いで **2番目の高さ** 水戸市91.1% 土浦市84.9% つくば市84.3% 東海村71.8%

(2)現状と課題の分析について

ア 本市の現況【市内における公共交通カバー範囲の状況】



市内総人口に対する **バス停300m・鉄道800m** 圏域における人口の割合

本市カバー率

約88.0%

※その他の市町村参考

茨城県全体※デマンド交通含む

約88.3%

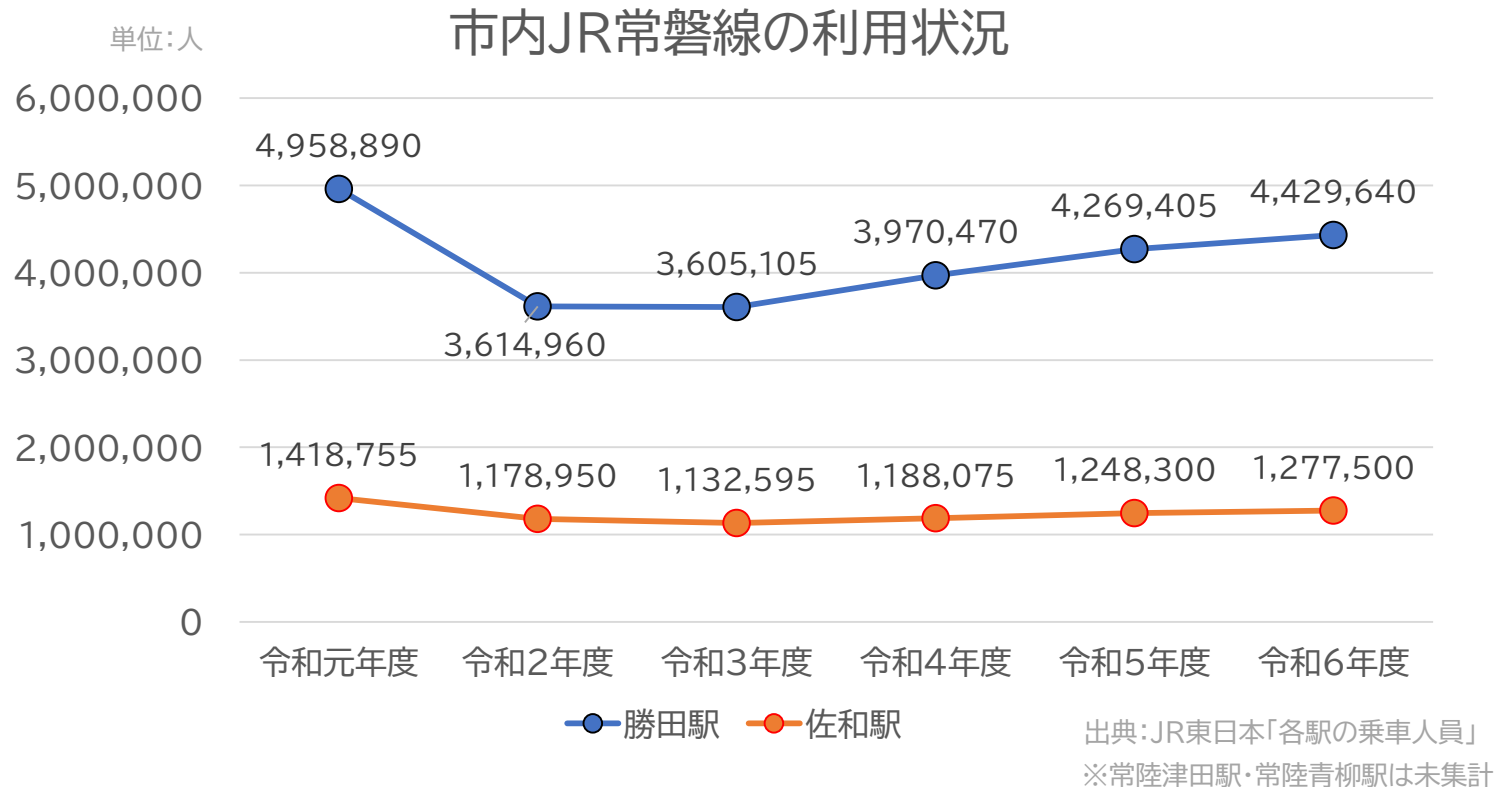
出典: 関東運輸局管内における公共交通基礎調査報告書 P.41
(令和6年3月)

鉄道・バスのみで茨城県全体の水準と同等の公共交通網を有している

(2)現状と課題の分析について

ア 本市の現況

【各公共交通機関の利用状況】



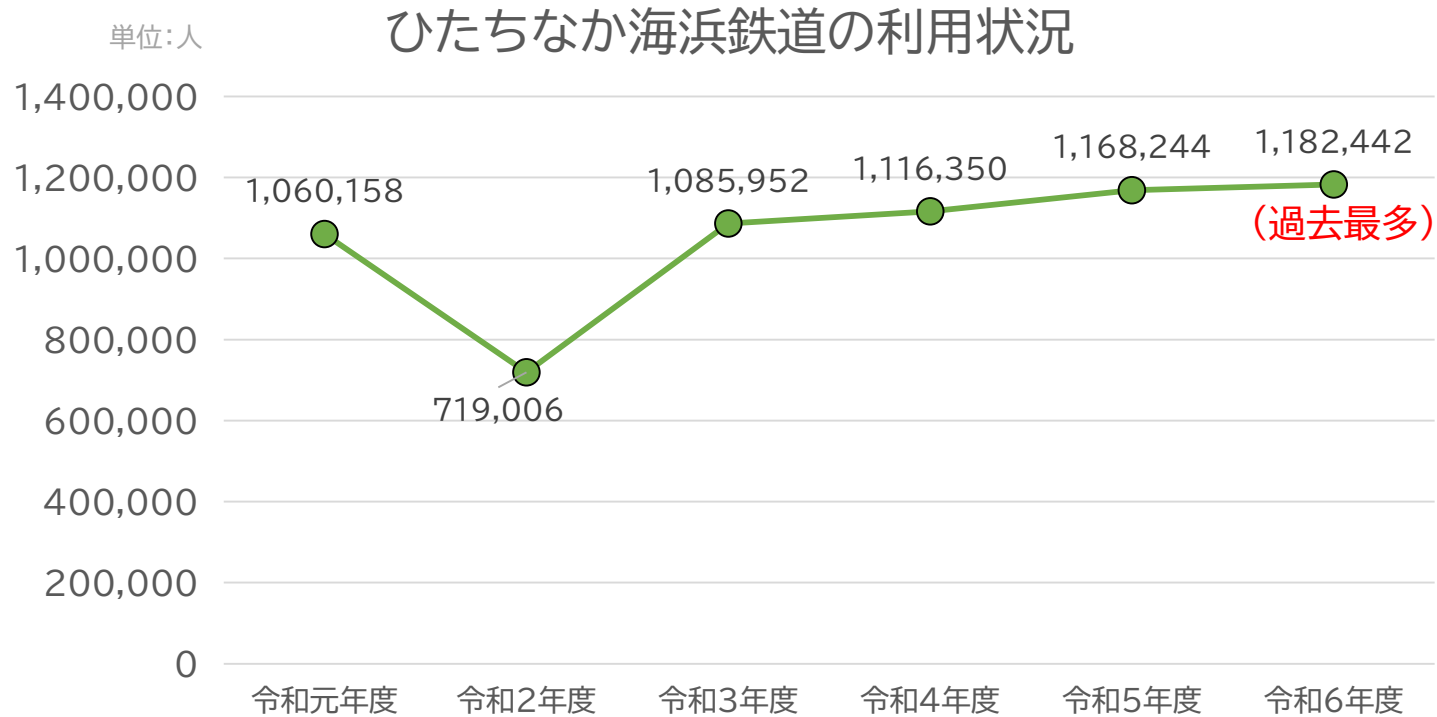
勝田駅はコロナ禍で利用者が約3割減少したが、令和3年度以降回復傾向が見られています。

佐和駅も一時、2割ほど減少しましたが、回復に向かう動きが見られています

(2)現状と課題の分析について

ア 本市の現況

【各公共交通機関の利用状況】



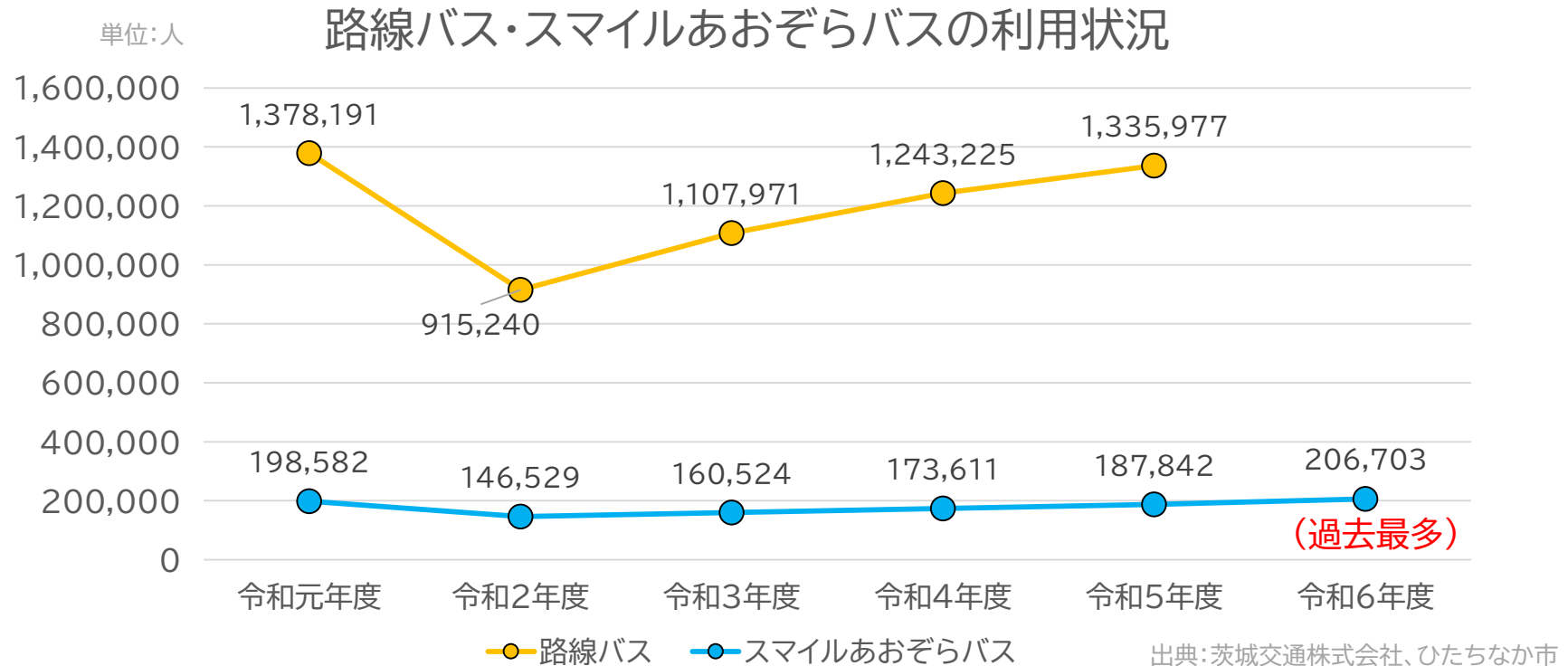
出典:ひたちなか海浜鉄道

令和2年度はコロナ禍で利用が減少しましたが、観光需要や美乃浜学園の開校で通学利用が増加するなど、利用者数はコロナ前を上回る水準に回復しています。

(2)現状と課題の分析について

ア 本市の現況

【各公共交通機関の利用状況】

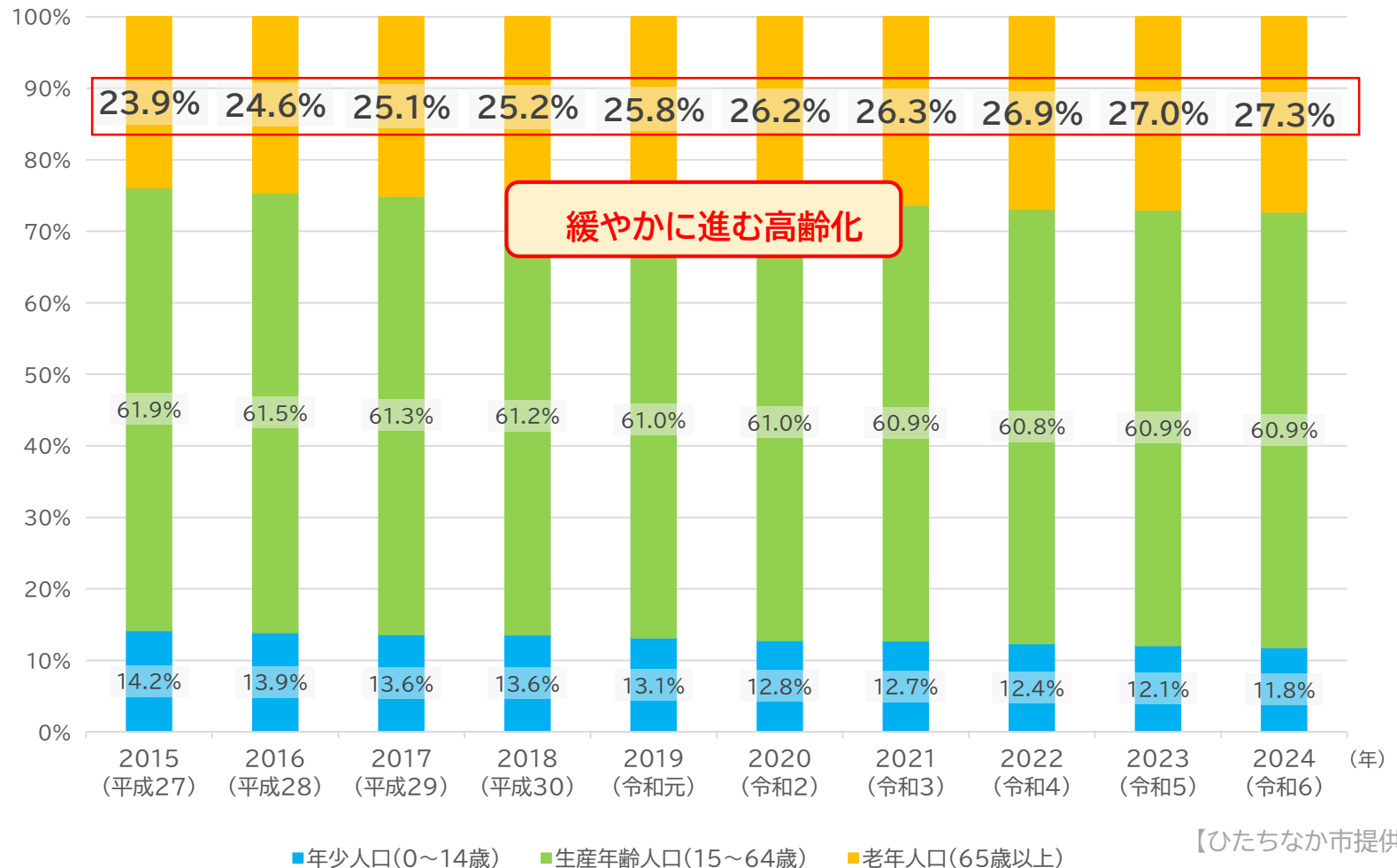


路線バスは、コロナ禍で利用者が減少しましたが、令和3年度以降は回復傾向にあります。
スマイルあおぞらバスについても、年々利用者は増えており、令和6年度は過去最多となる20万人超を記録しています。

(2)現状と課題の分析について

ア 本市の現況

【年齢3区分別人口の推移と特徴】



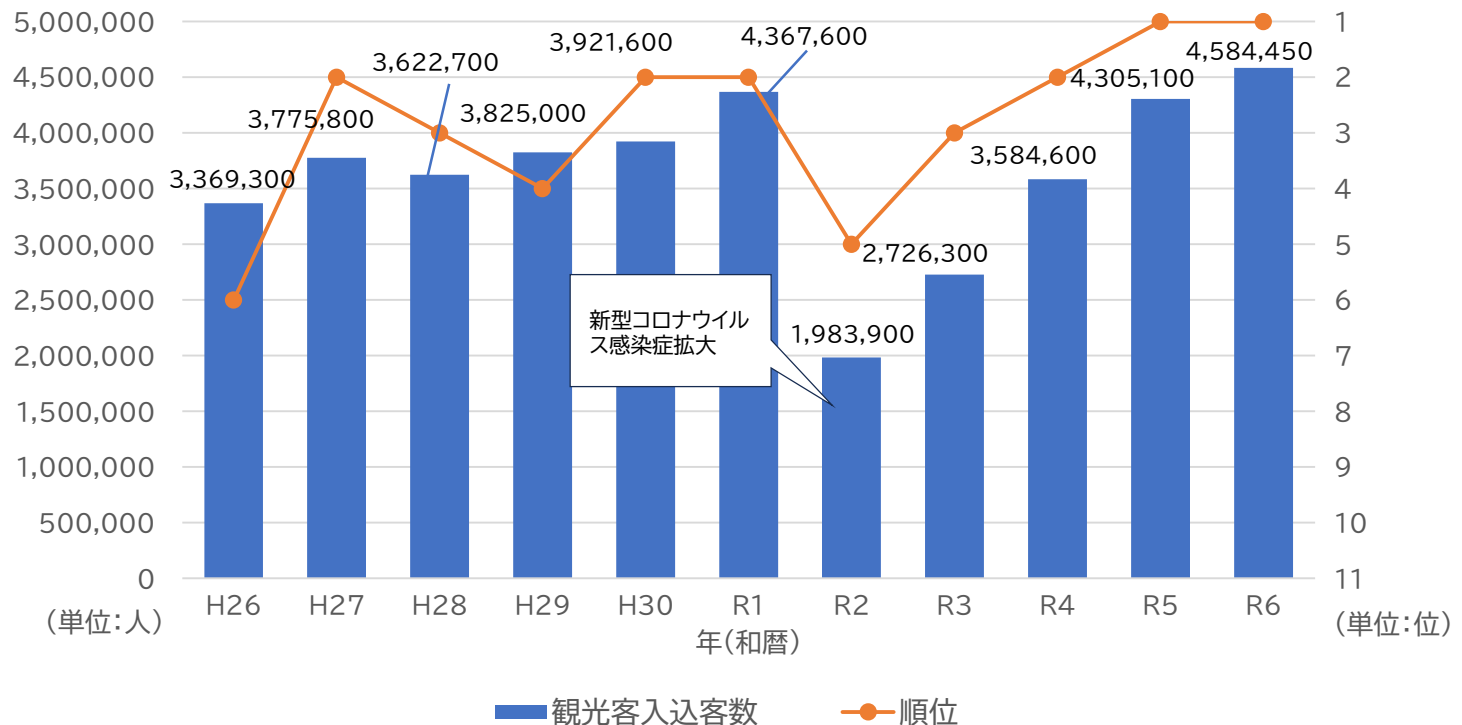
(2)現状と課題の分析について

ア 本市の現況

【観光客の現況】

ひたちなか市の観光入込客数は、第2期観光振興計画が始まった平成28年は360万人であり、令和元年には436万人を記録しました。令和2年は新型コロナウイルスの影響により198万人まで減少しましたが、以後は着実に増加し、令和5年度及び令和6年度と観光入込客数は**2年続けて茨城県内1位**を記録しています。

一方で、事業者ヒアリングからは駐車場不足による車の渋滞が課題となっています。



(2)現状と課題の分析について

イ アンケート調査等の結果

(ア) 一般アンケートの概要

◇ 調査期間 令和7月7月8日～7月18日まで

◇ 調査方法 オンライン及び紙媒体による回収

◇ 周知方法 市公式LINE, 市公式X, 市ホームページ

主要バス停に掲出, 公共施設等にポスターを掲出

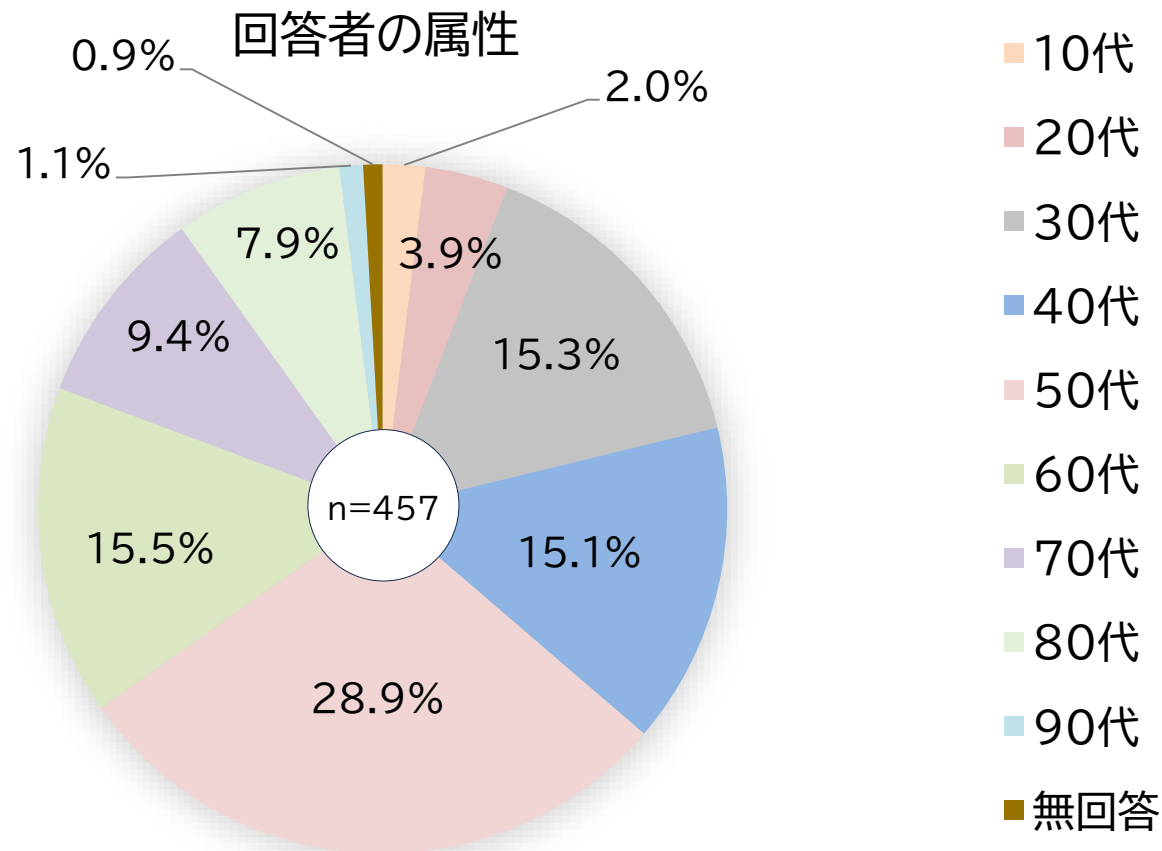
◇ 回答数 457件(オンライン411件, 紙媒体46件)

(2)現状と課題の分析について

イ アンケート調査等

(ア) 一般アンケートの結果

回答者の年齢層について



(2)現状と課題の分析について

イ アンケート調査等

(ア)一般アンケートの結果【主な傾向】

- ・ 自家用車依存が高い → 「日常移動＝車」が多数派(週3～4日、週5日以上の利用が約7割)
- ・ 公共交通利用者(直近月1回以上、公共交通利用者)と非利用者では利用者の満足度が高い傾向
→ 実際に利用することでサービスの利便性や有用性を実感
- ・ 行動の変化に関する意識 → 将来は「公共交通の時間に合わせて生活する」意識が高い

→ 日常的には自家用車依存が高い一方、将来の移動手段への不安から公共交通への期待が高まっています。将来は“公共交通の時間に合わせて生活する”意識も高く、公共交通を使いやすさを高める取組が重要となっている。

(イ)情報取得と利用しにくさに関する傾向

- ・ バスの時刻・行先を検索エンジンで調べる人が約6割(55.8%) → スマホ・PCが情報取得の主流

→ 「時刻やルートが分かりにくい」「調べ方が難しい」など、情報の分かりにくさが利用障壁に

→ 検索エンジン等も活用した「見つけやすさ」「わかりやすさ」など、情報発信の強化により、公共交通を利用する人が増える可能性がある。

(2)現状と課題の分析について

イ アンケート調査等

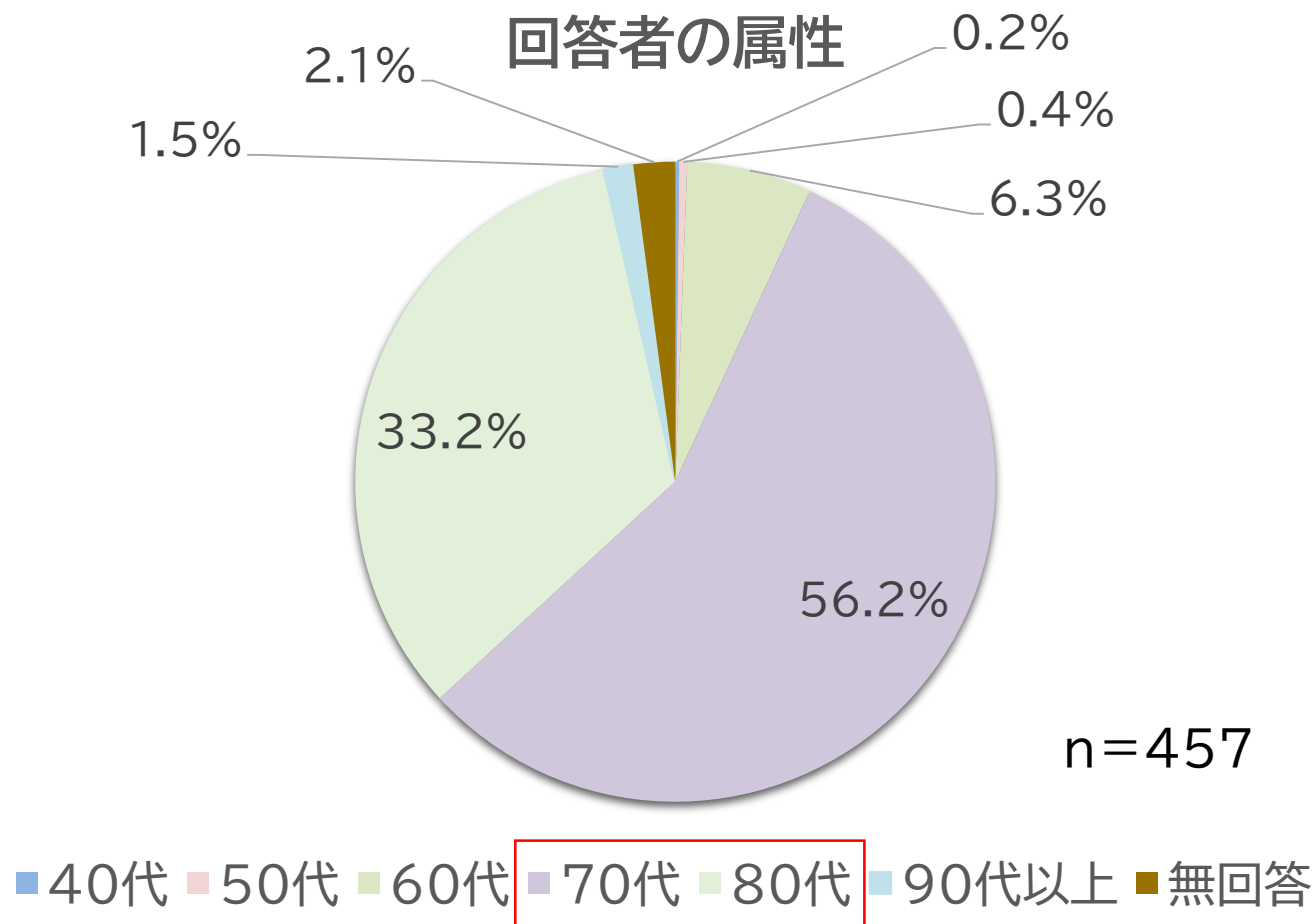
(イ) 高齢者アンケートの概要

- ◇ 調査期間 令和7月6月3日～回収終了まで
- ◇ 調査方法 紙媒体による回収
- ◇ 周知方法 シルバーリハビリ指導士を通じて体操実施会場に配布(13会場)
- ◇ 回答数 473件

(2)現状と課題の分析について

イ アンケート調査等

(イ)高齢者アンケートの結果



(2)現状と課題の分析について

イ アンケート調査等

(イ)高齢者アンケートの結果 【主な傾向】

- ・回答者のうち免許を持っていない方の割合は約22%となっている。
- ・免許を持っていない方の通院や買い物の交通手段は、家族の送迎、徒歩、自転車、が多い傾向にある。

→ 公共交通の利用拡大につながる潜在的需要が見込まれる

- ・スマートフォンの保有割合は高く、LINEの利用も見られる。
- ・電車やバスを選ばない場面は、体力的な理由よりも、時刻や目的地までの乗り継ぎが分からない理由が多い。

→ 紙やLINE等のデジタル技術といった、様々な媒体を活用し、時刻やルートなど、分かりやすい情報発信で公共交通を利用する人が増える可能性

(2)現状と課題の分析について

(ウ) スマイルあおぞらバスなど公共交通に関するグループインタビュー

◇ 実施期間 令和7月8月1日(金)、8月6日(水) 延べ3回開催

◇ 実施目的 ・ 公共交通(特にスマイルあおぞらバス)の具体的な利用状況の把握
・ 公共交通時刻表等認知の状況の把握
・ 利用していない場合の理由、利用に転換する可能性のある改善点など
について広く把握

◇ 周知方法 市公式LINE, 市公式X
市HP, 主要バス停に掲出 等

◇ 参加者 合計18名

スマイルあおぞらバス利用者 5名

// 非利用者 13名(※)

※主に自家用車を利用されている方



(2)現状と課題の分析について

(ウ) スマイルあおぞらバスなど公共交通に関するグループインタビュー

◇ スマイルあおぞらバス利用者(主な意見)

- ・ バスの時間に合わせて毎日の予定を決めています
- ・ 行きは家族に送ってもらい、帰りはバスを使うなど工夫しています
- ・ 週に2回は買い物に使うなど、日常の移動にすっかりなじんでいます
- ・ 時刻表が見つらいため、自分で書き直して使っており、やはり紙のほうが安心です
- ・ 鉄道とスマイルあおぞらバスの乗り継ぎ時間がせめて8分程度は欲しい



◇ スマイルあおぞらバス非利用者(主な意見)

- ・ 団地やスーパーの前など、生活の動線上にバス停を増やしてほしい
- ・ 時刻表や情報がもっと分かりやすく、紙・アプリどちらも必要
- ・ 荷物が多い日や雨の日はタクシーを使いたい、アプリなどで簡単に呼べると助かる
- ・ 公共交通の利用を促進するため、バス停まで歩けるように利用者の健康維持を目的とした啓発活動を行ってはどうか

(2)現状と課題の分析について

(エ) 計画策定特別小委員会

◇ 開催日 令和7年8月18日(月)及び書面協議

◇ 開催目的 現状や課題, 施策等について議論を深めていく。

※活性化協議会の分科会として設置

◇ 委員構成(委員16名)

(委員長) 学識経験者(茨城大学名誉教授 山田 稔氏)

(委 員) 公共交通事業者、公共交通事業者の組織する団体、
自治会連合会、福祉有償運送運行事業者、社会福祉協議会
市連合民生委員児童委員協議会、地域包括支援センター
介護サービス事業者連絡協議会、茨城運輸支局 の代表者、市企画部長

(オブザーバー) 生活安全課、介護保険課、高齢福祉課、観光振興課
道路管理課、都市計画課、教育委員会事務局指導課

(2)現状と課題の分析について

(工) 計画策定特別小委員会の意見

1. 各公共交通の状況

- ・ 少子化・働き方変化で定期利用はコロナ前に戻っていないものの、利用者は回復傾向(JR線)
- ・ 定期利用は減少傾向、観光需要を取り込むことで補完しており、利用者は過去最高を記録(湊線)
- ・ 運転士不足＋労働規制で朝夕減便。イベントや観光需要を取り込むことで補完(路線バス)

2. スマイルあおぞらバスの状況

- ・ 路線拡充、利用増加は進むが、時刻・路線が分かりにくく、目的地によっては遠回りになる場合もある
- ・ 持続可能な運行や利便性向上のため、運賃水準の見直しの検討が必要

3. 高齢者等の移動

- ・ 公共交通利用は高齢者の心身活性化・介護予防に有効
- ・ 公共交通を使える人は積極的な利用を促進、介助や同行が必要な方をどう支援するかが課題
- ・ 免許返納が促進されるよう公共交通の利便性向上が必要
- ・ 介助や同行が必要な方の移動の担い手不足等により、移動ニーズへの対応や事業運営が困難

4. 地域特性・住民ニーズ

- ・ 団地の高齢化・免許返納等で公共交通ニーズは拡大。時刻等の見直し・バス停増設により利用者増が期待。

(3)課題の整理について

【現状の整理 ～統計データと住民意見等からの把握～】

◆ 現況(統計・整備状況など)

生活圏:可住地面積が広く、スーパー・医院が分散

交通基盤:JR・湊線が広域・観光、路線バス

+スマイルあおぞらバスが面的補完

カバー率:約88%(県内高水準)

利用状況:スマイルあおぞらバス 20万人超

→ 公共交通利用者 回復・増加傾向

社会動向:高齢化で非運転者増加

観光需要:県内最多、渋滞対策が課題

市の関連施策との連携

◆ アンケート・インタビューから見える実態

情報課題:時刻・ルートが分かりにくい

→ 紙+デジタルで見やすく

利用実態:生活リズムに公共交通が浸透

利用の壁:「乗継が難しい」「バス停が遠い」

生活導線:団地・スーパー前への停留所要望

効果:利用が高齢者の健康維持に有効

◆ 計画策定特別小委員会から

① 担い手・人材

・ 路線バス:運転士不足、労働規制で減便傾向

・ 介助や同行が必要な方の移動を支える担い手が不足

② 利便性・利用促進

・ バス停まで歩くことは高齢者の健康維持に有効

・ 免許返納を促進するスマイルあおぞらバスの利便性向上と停留所の改善等が必要

・ 時刻、路線が分かりにくく、情報改善が必要

・ 介助や同行が必要な方への移動の観点が必要

③ 交通モードの課題等

・ 定期利用の減少が見込まれ、将来的な需要の取り込みが必要

・ スマイルあおぞらバスの運賃の適正化の検討

これらを踏まえ、公共交通の課題を整理しました

(3)課題の整理について

【課題1】 広域交通ネットワーク及び階層化ネットワークを活かした連携の強化

ポイント	JR・湊線・バス等を活かし、都市拠点間や地域内の移動がスムーズにつながる仕組みづくりが必要です
背景	ひたちなか市は4つの都市拠点を位置付けており、鉄道とバスを連携させたネットワーク構築が重要です。「利用者は複数の公共交通を組み合わせで行動する」との声もあり、幹線と支線を結ぶネットワークの強化による利用促進のほか、観光需要の取り込みが求められています。(関連スライド:13・14・30)

【課題2】 スマイルあおぞらバスの最適化

ポイント	市民生活に密着した移動手段とするため、ルートや時間帯の柔軟な見直しに加え、バス停配置の工夫など、誰もが使いやすい利便性が求められます。
背景	本市は公共交通のカバー率が高く、地域全体を支えるネットワークが整っています。一方で、生活動線上のバス停設置や、乗り継ぎを考慮したダイヤ設計など、スマイルあおぞらバスを一層利用しやすい環境を整えていくことが求められています。また、高齢化が進む中、免許返納の促進や介護予防の効果も想定して、ニーズに対応することが求められています。(関連スライド:16・17・30・33)

(3)課題の整理について

【課題3】 誰もが利用しやすい公共交通サービスの提供

ポイント	誰にとってもわかりやすい周知を目指す必要があります
背景	「バスのルートや時刻がわかりづらい」「調べ方が難しい」といった声が多く寄せられており、わかりやすい情報提供が求められています。また「紙の時刻表の方が良い」との意見もあることから、デジタル技術と紙媒体を組み合わせ、多様な手段で分かりやすい案内を充実させることが求められています。(関連スライド:25・30・33)

【課題4】 既存の公共交通を維持する取組の充実

ポイント	今ある交通資源を大切に活かし、利用促進と協働によって持続可能な公共交通を実現することが求められます
背景	各公共交通の利用者数は、コロナ禍以降、回復傾向にありますが、人口減少や働き方の変化等により定期利用はコロナ前の水準に戻っていない現状があります。アンケートでは「公共交通を使っている人ほど満足度が高い」との結果もあり、JR線、湊線、バス等公共交通全体の利用促進が必要です。「乗って残す」ことの周知を図り潜在的な需要を取り込むほか、公共交通を市民とともに育てていく姿勢が地域交通維持のカギとなります。また、スマイルあおぞらバス運賃のあり方を考えていく必要もあります。(関連スライド:18・19・20・21・22・25)

(3)課題の整理について

【課題5】 介助や同行が必要な方の移動支援

ポイント

一人では公共交通を利用することが難しい方を支えるための移動支援の仕組みが求められています。

背景

一人で、バスや鉄道を利用できる方については、公共交通の利用を促進しています。

一方で、介助や同行を伴う移動サービスは、担い手不足や採算性が課題となっています。そのため、公共交通を利用できず介助を必要とする方の移動ニーズに十分応えることが難しくなっています。こうした方々の移動をどのように支えるかについて、関係機関が連携して取り組むことが重要です。(関連スライド:33)

本日の進行

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 新任委員紹介

4 議事

(1)協議事項

- ① ひたちなか市地域公共交通網形成計画の一部改訂(案)について
- ② 湊線鉄道事業再構築実施計画(案)について
- ③ ひたちなか市地域公共交通計画の策定について(課題の整理について)

(2)その他

- 5 その他
- 6 閉会

本日の進行

1 開会

2 会長挨拶

3 新任委員紹介

4 議事

(1)協議事項

① ひたちなか市地域公共交通網形成計画の一部改訂(案)について

② 湊線鉄道事業再構築実施計画(案)について

③ ひたちなか市地域公共交通計画の策定について(課題の整理について)

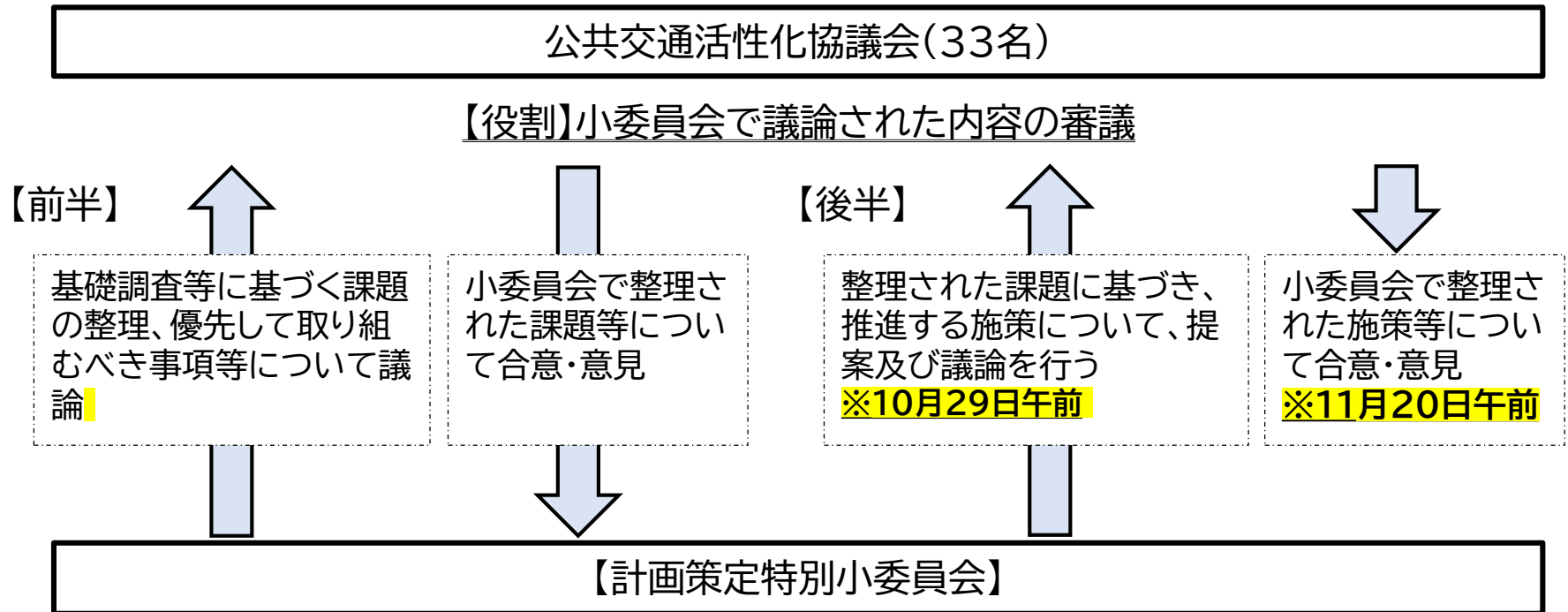
(2)その他

5 その他

6 閉会

5 その他

地域公共交通計画策定に係る今後のスケジュールと次回以降の進め方について



- ・ 本日整理した課題をもとに、10月29日開催の計画策定特別小委員会において、施策等について意見交換を行います。
- ・ 11月20日の協議会において、小委員会で議論した内容について、合意をいただきます。
- ・ その後、パブリックコメントの実施を経て、令和7年度中の計画策定を目指します。

本日の進行

1 開会

2 会長挨拶

3 新任委員紹介

4 議事

(1)協議事項

① ひたちなか市地域公共交通網形成計画の一部改訂(案)について

② 湊線鉄道事業再構築実施計画(案)について

③ ひたちなか市地域公共交通計画の策定について(課題の整理について)

(2)その他

5 その他

6 閉会

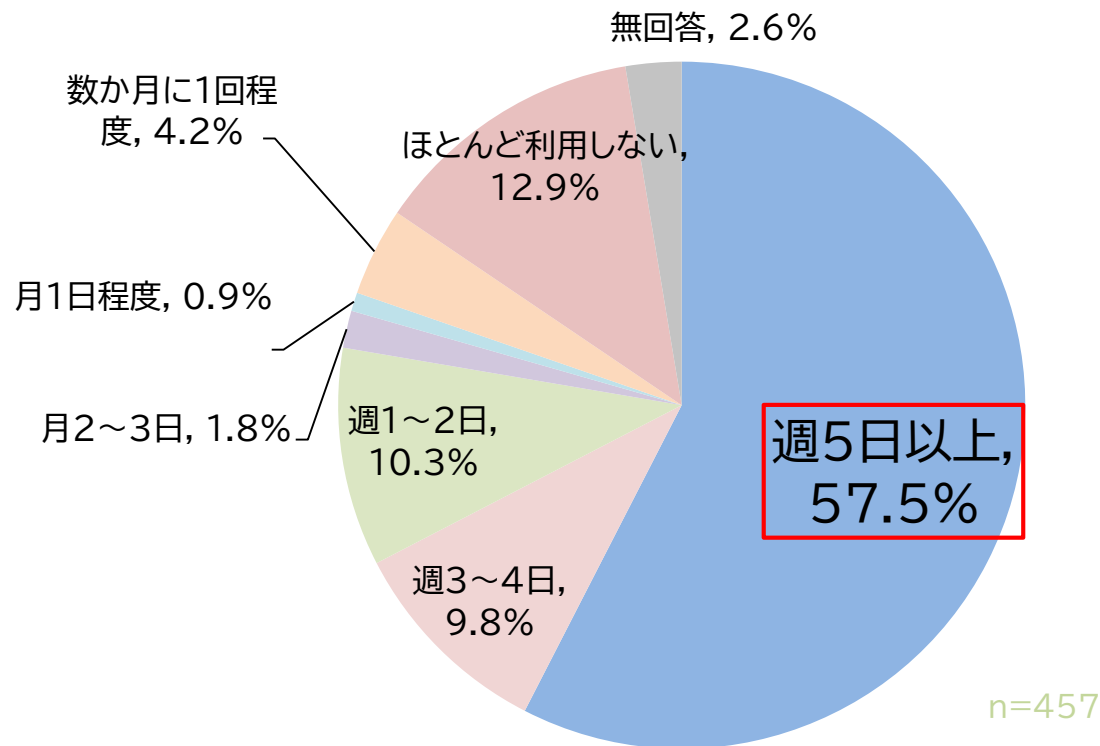
參考資料

(2)現状と課題の分析について

イ アンケート調査等

(ア) 一般アンケートの結果

Q.直近1ヶ月における自家用車(自分で運転)の利用頻度について



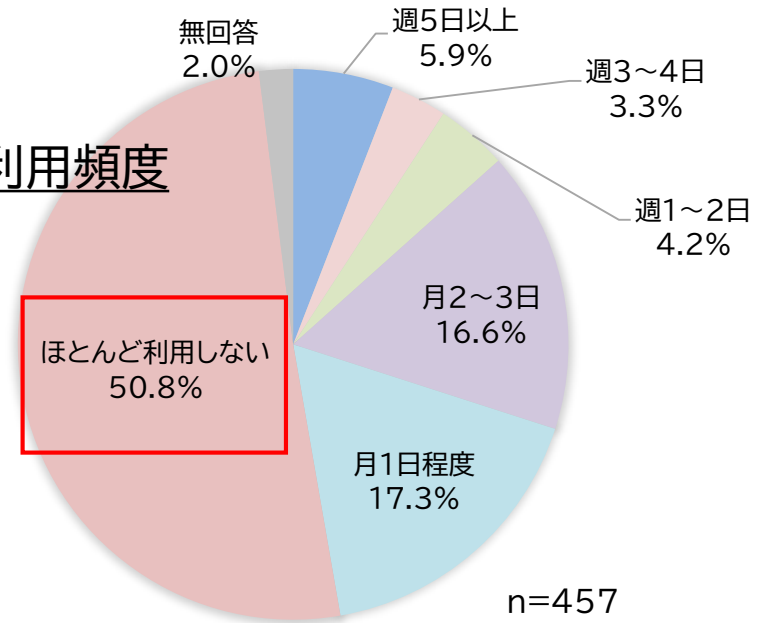
(2)現状と課題の分析について

イ アンケート調査等

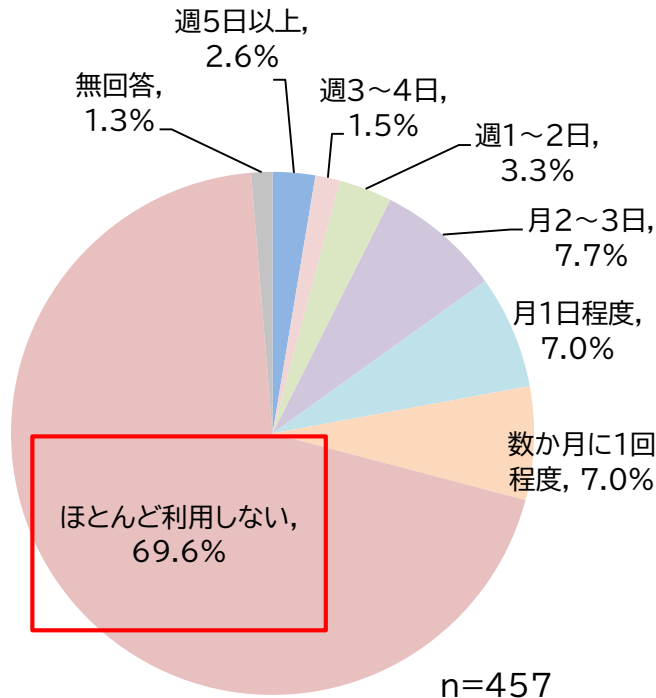
(ア) 一般アンケートの結果

Q.直近1か月の公共交通の利用頻度について

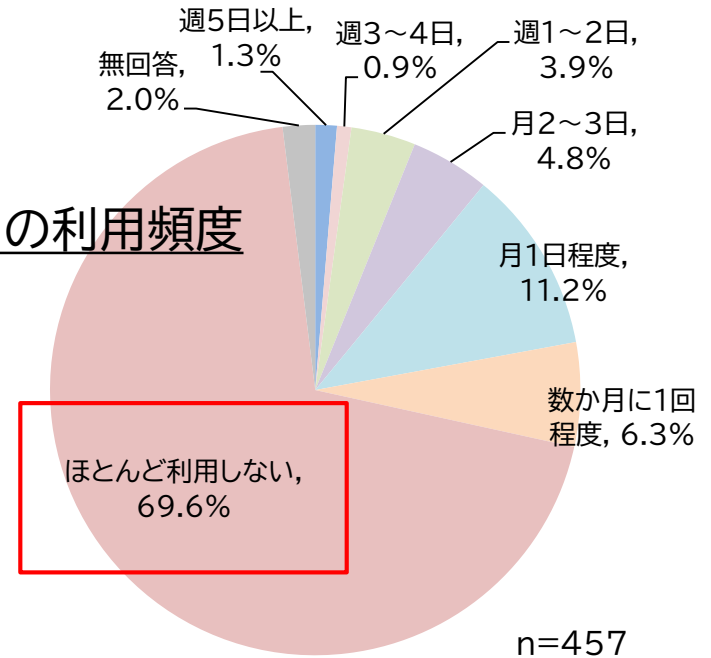
鉄道の利用頻度



路線バスの利用頻度



コミバスの利用頻度

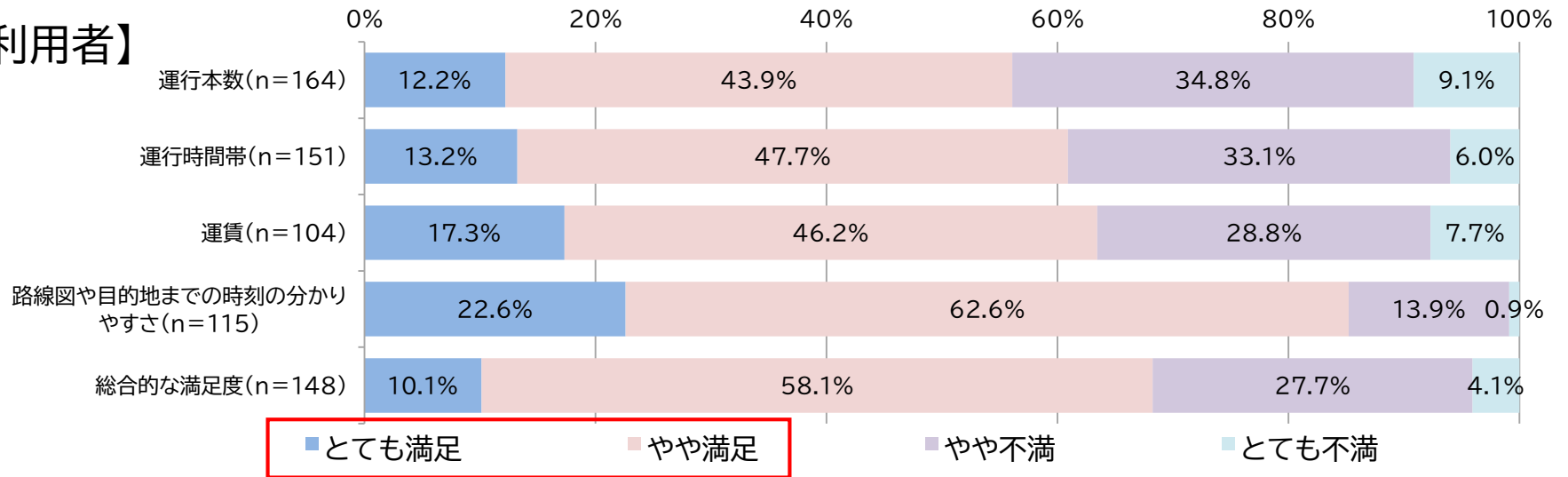


(2)現状と課題の分析について

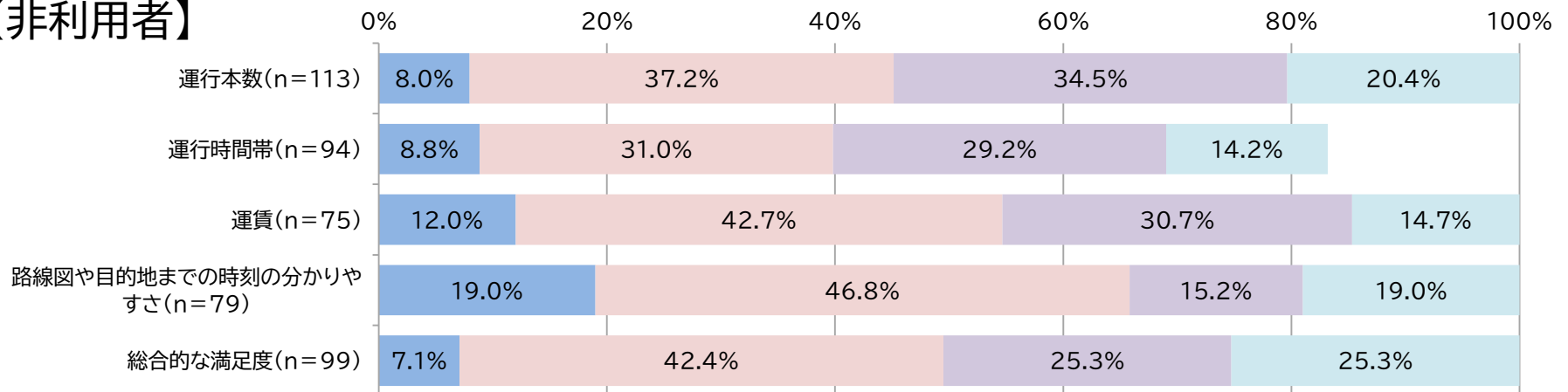
(ア) 一般アンケートの結果

【鉄道の満足度について】

【利用者】



【非利用者】

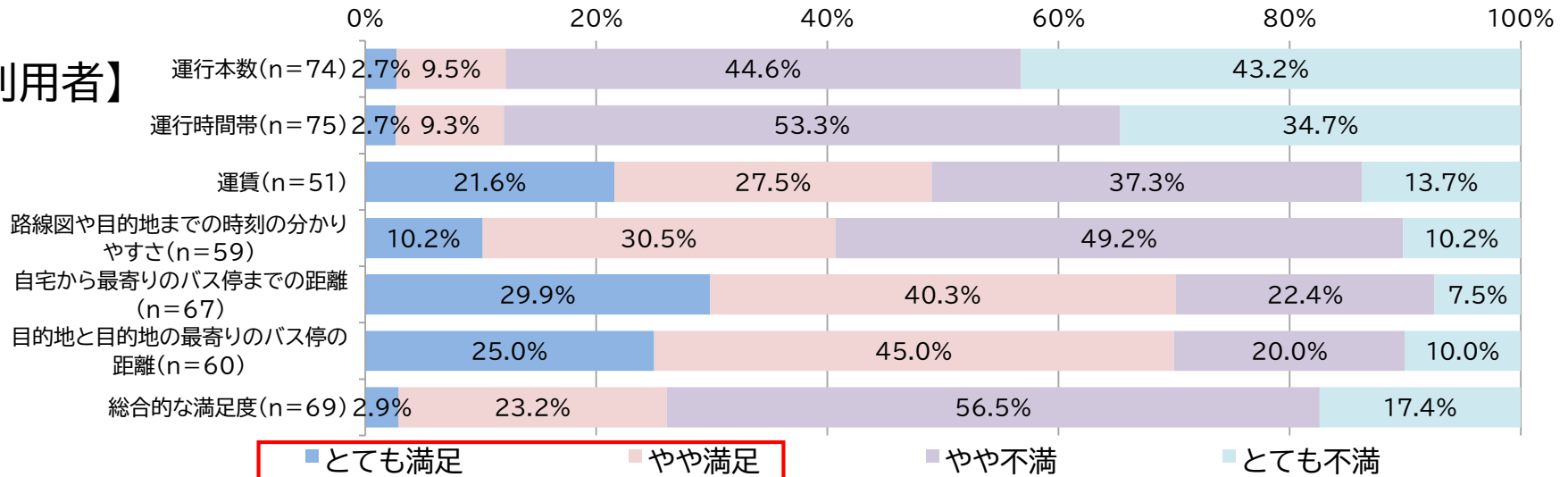


(2)現状と課題の分析について

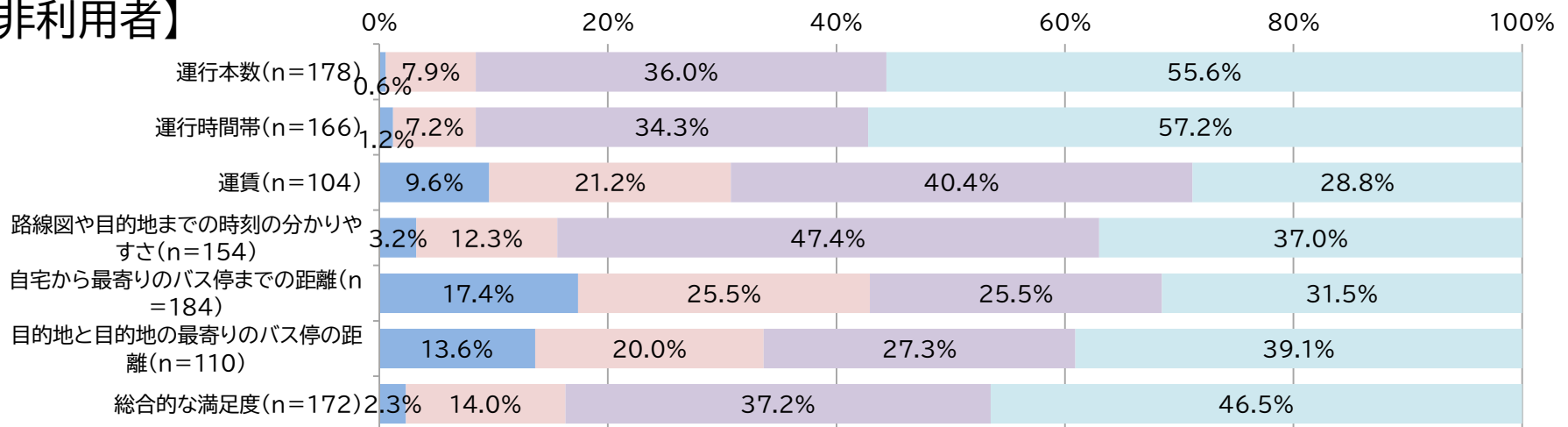
(ア) 一般アンケートの結果

【路線バスの満足度について】

【利用者】



【非利用者】

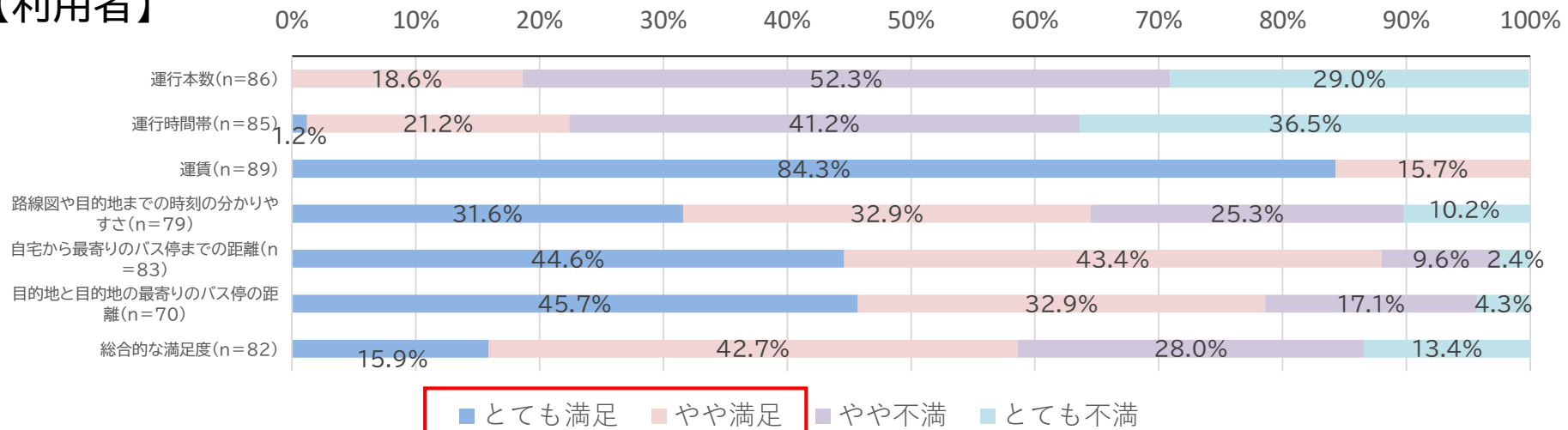


(1)現状と課題の分析について

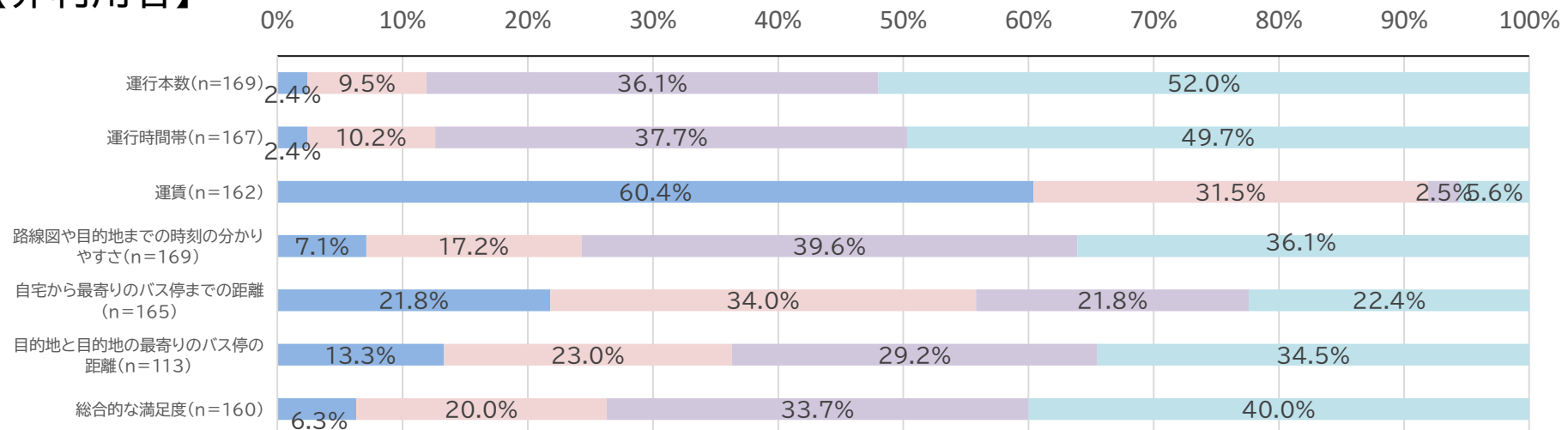
(ア) 一般アンケートの結果

【スマイルあおぞらバスの満足度について】

【利用者】



【非利用者】

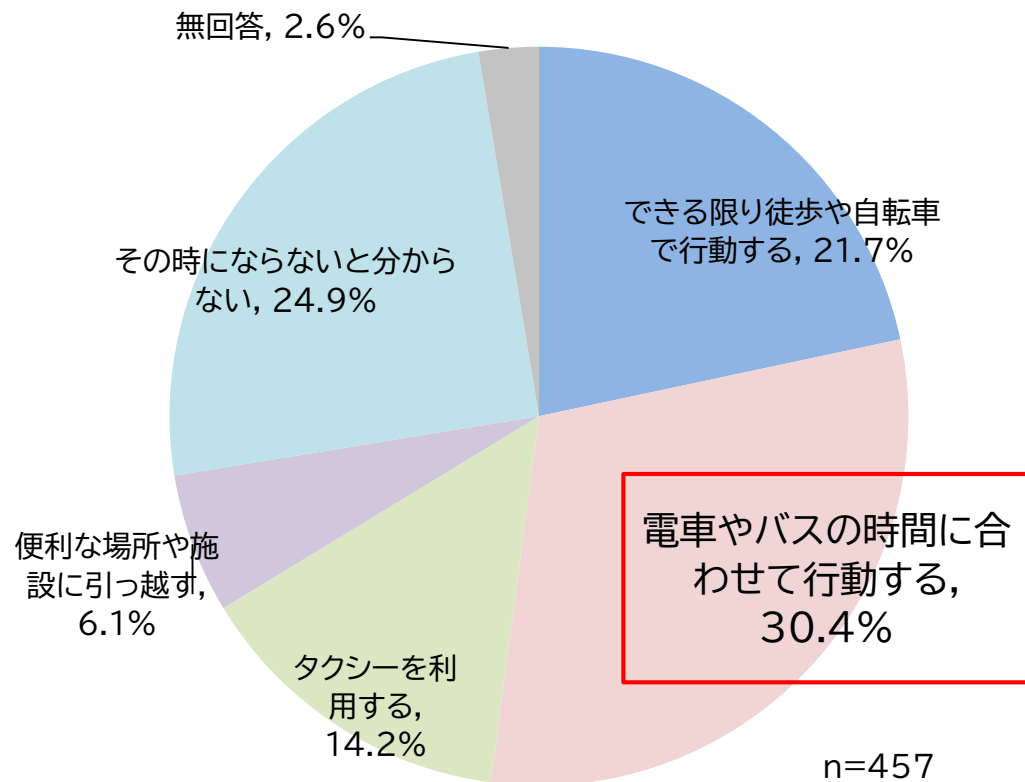


(2)現状と課題の分析について

イ アンケート調査等

(ア) 一般アンケートの結果

運転や送迎ができなくなった場合の対処方法

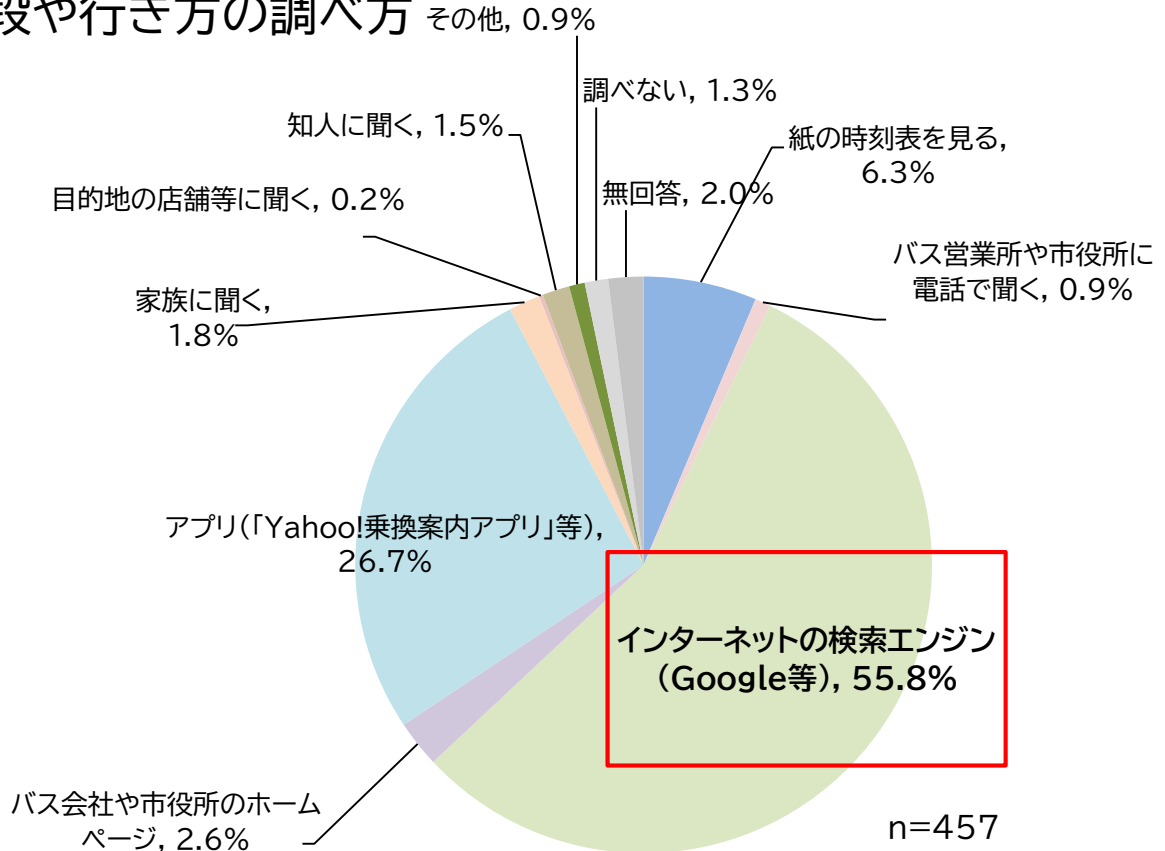


(2)現状と課題の分析について

イ アンケート調査等

(ア) 一般アンケートの結果

はじめて行く場所の移動手段や行き方の調べ方

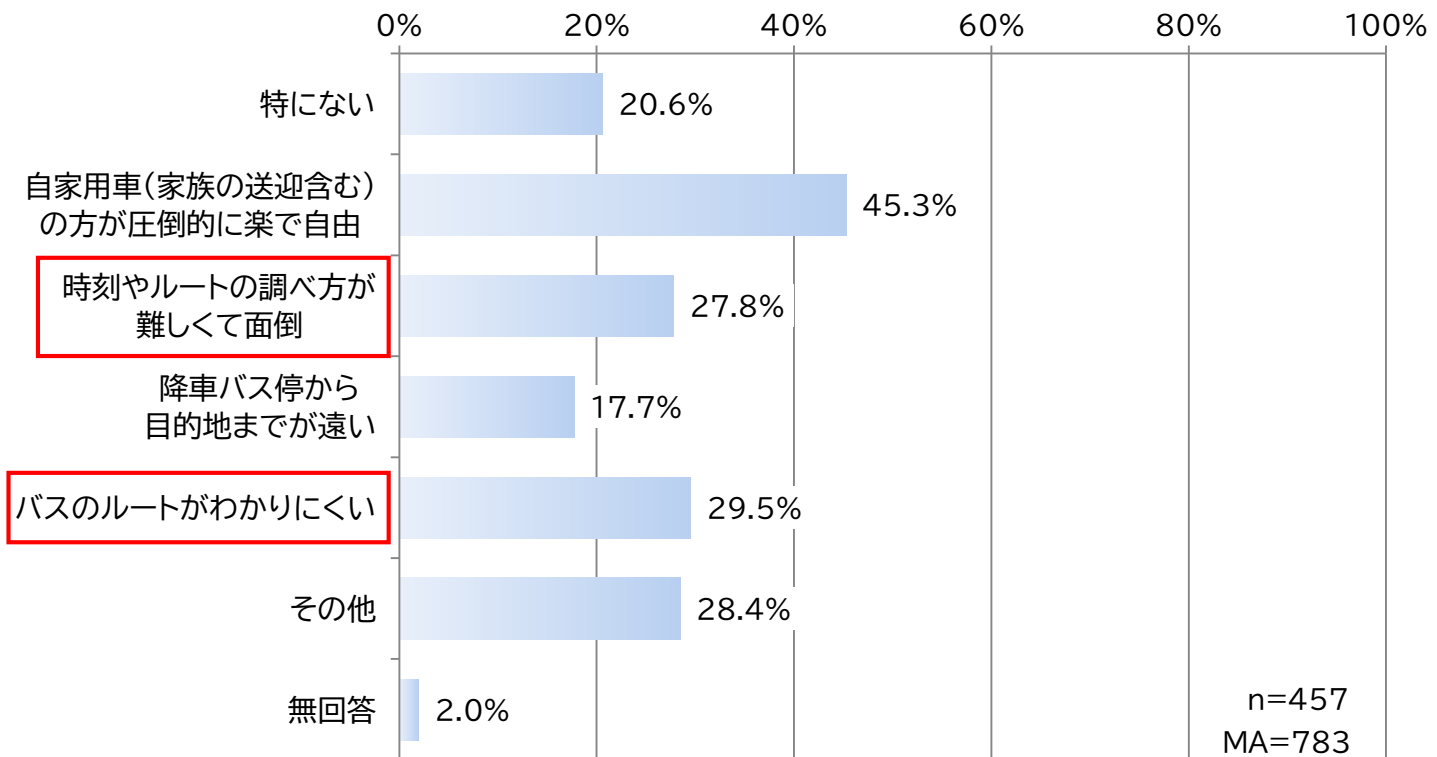


(2)現状と課題の分析について

イ アンケート調査等

(ア) 一般アンケートの結果

路線バスやスマイルあおぞらバスを利用しない理由

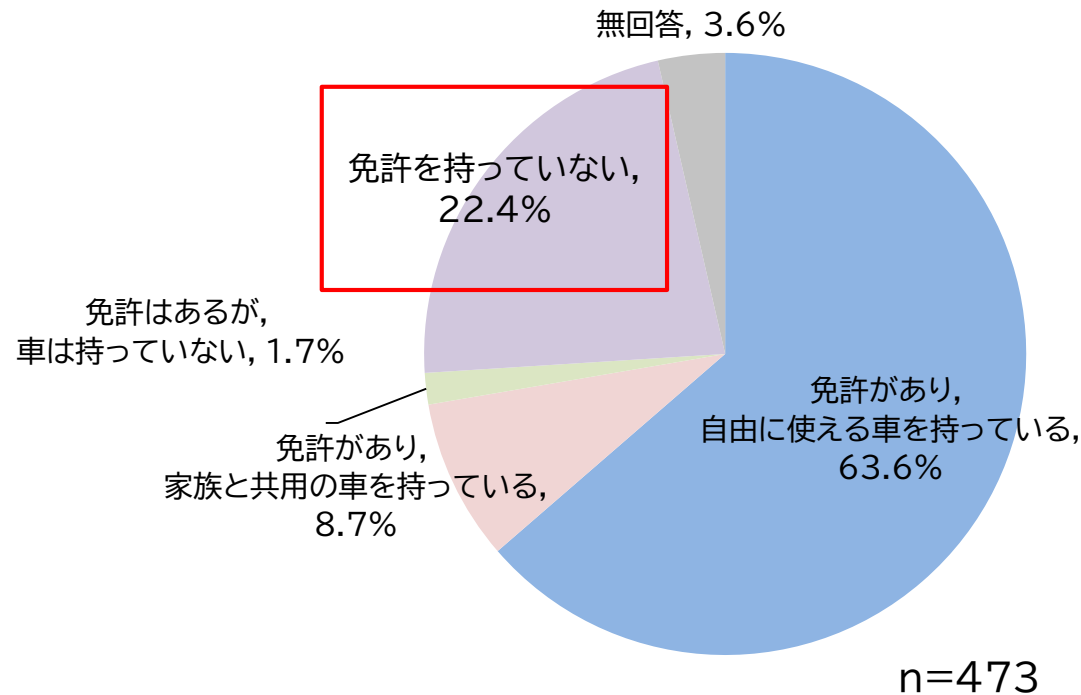


(2)現状と課題の分析について

イ アンケート調査等

(イ)高齢者アンケートの結果

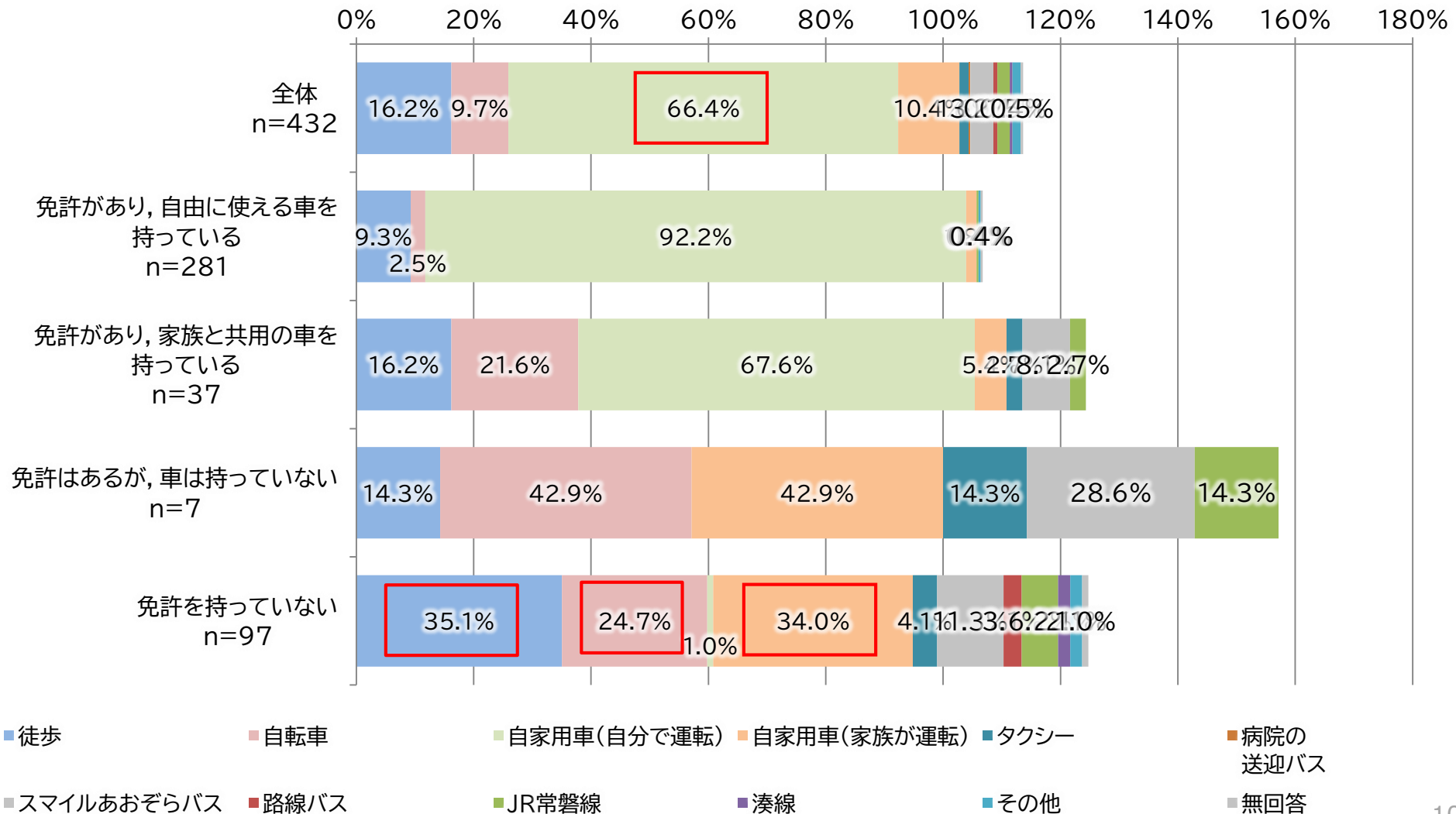
運転免許の有無



(2)現状と課題の分析について

イ アンケート調査等

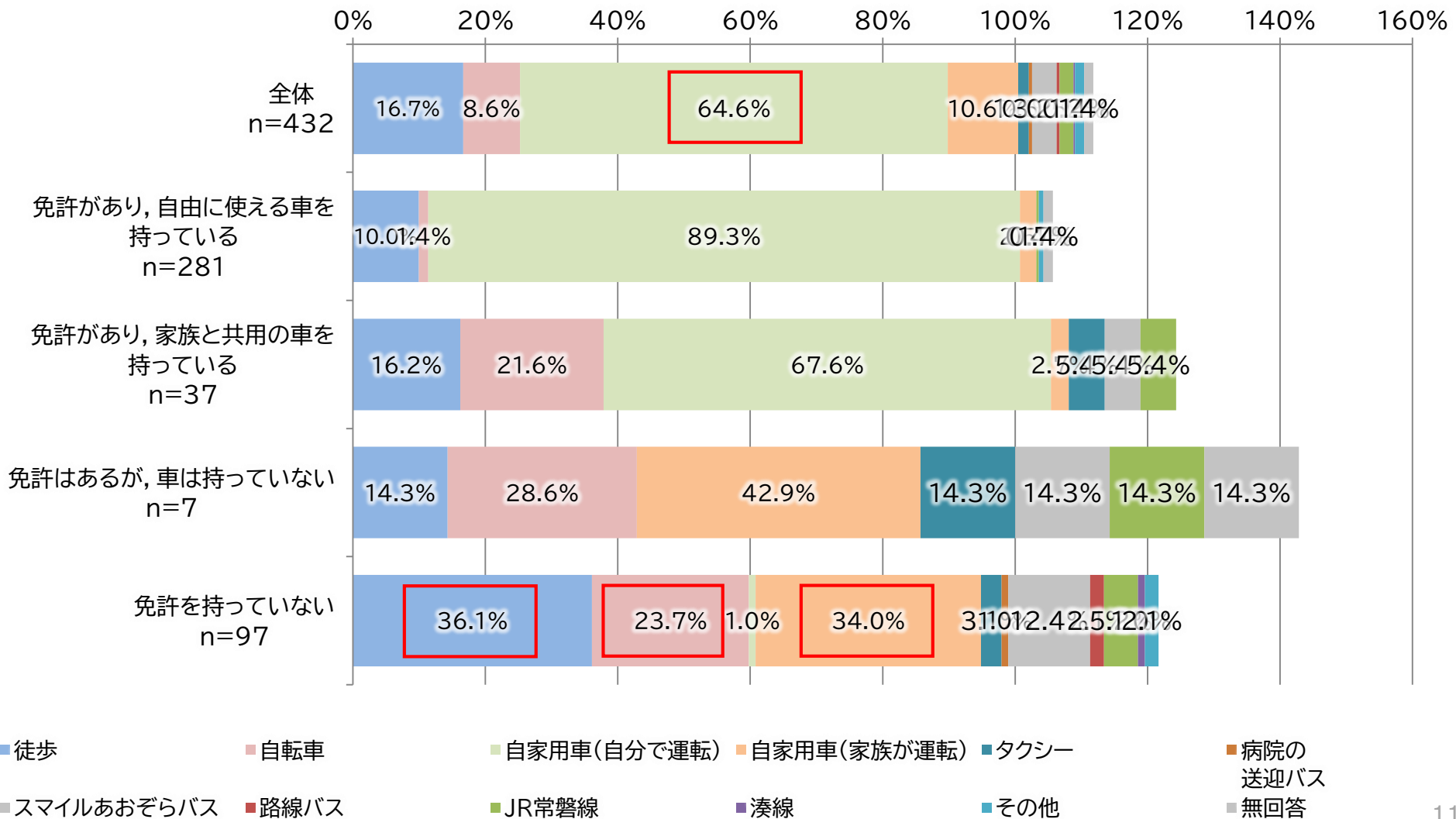
(イ)高齢者アンケートの結果 通院(行き)の交通手段



(1)現状と課題の分析について

イ アンケート調査等

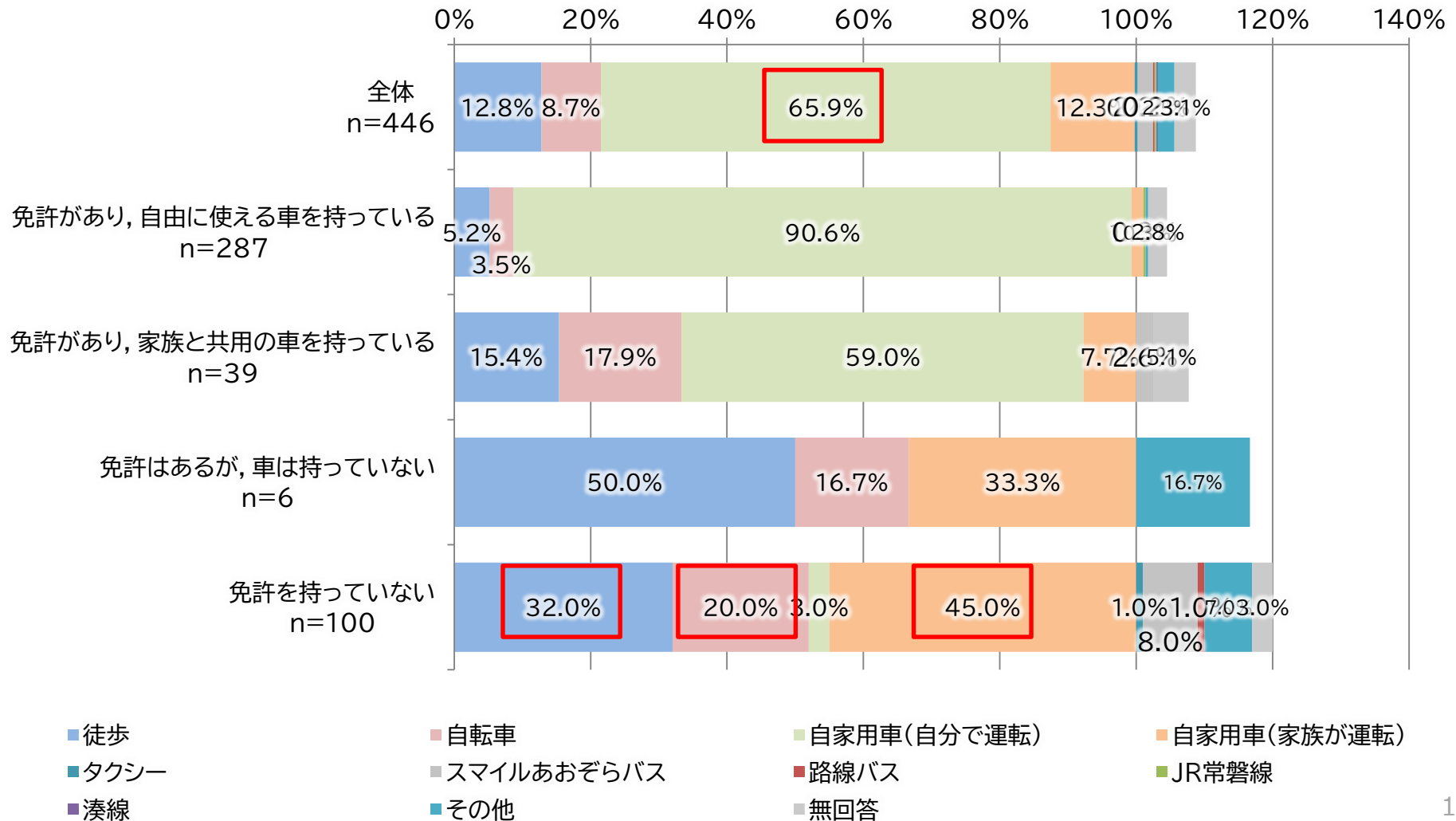
(イ)高齢者アンケートの結果 通院(帰り)の交通手段



(1)現状と課題の分析について

イ アンケート調査等

(イ)高齢者アンケートの結果 買い物の交通手段

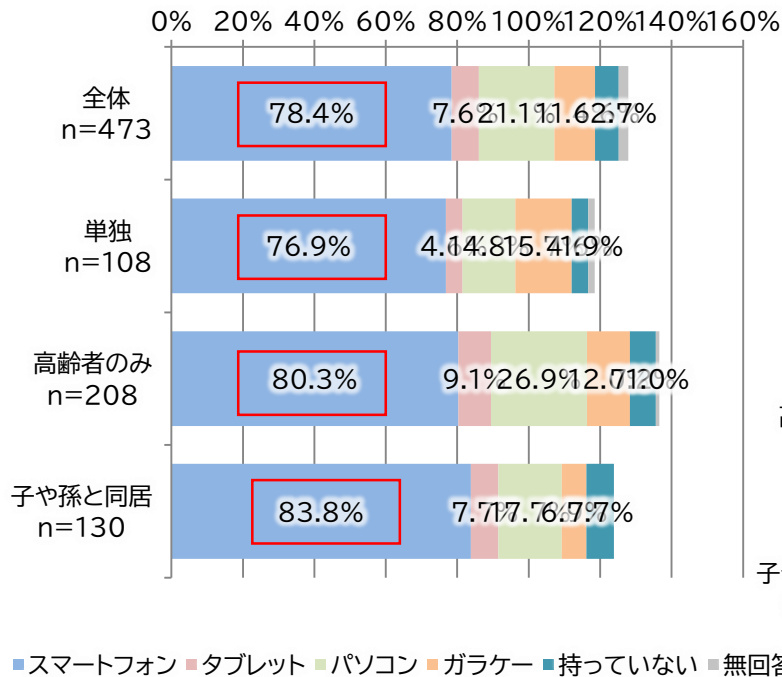


(1)現状と課題の分析について

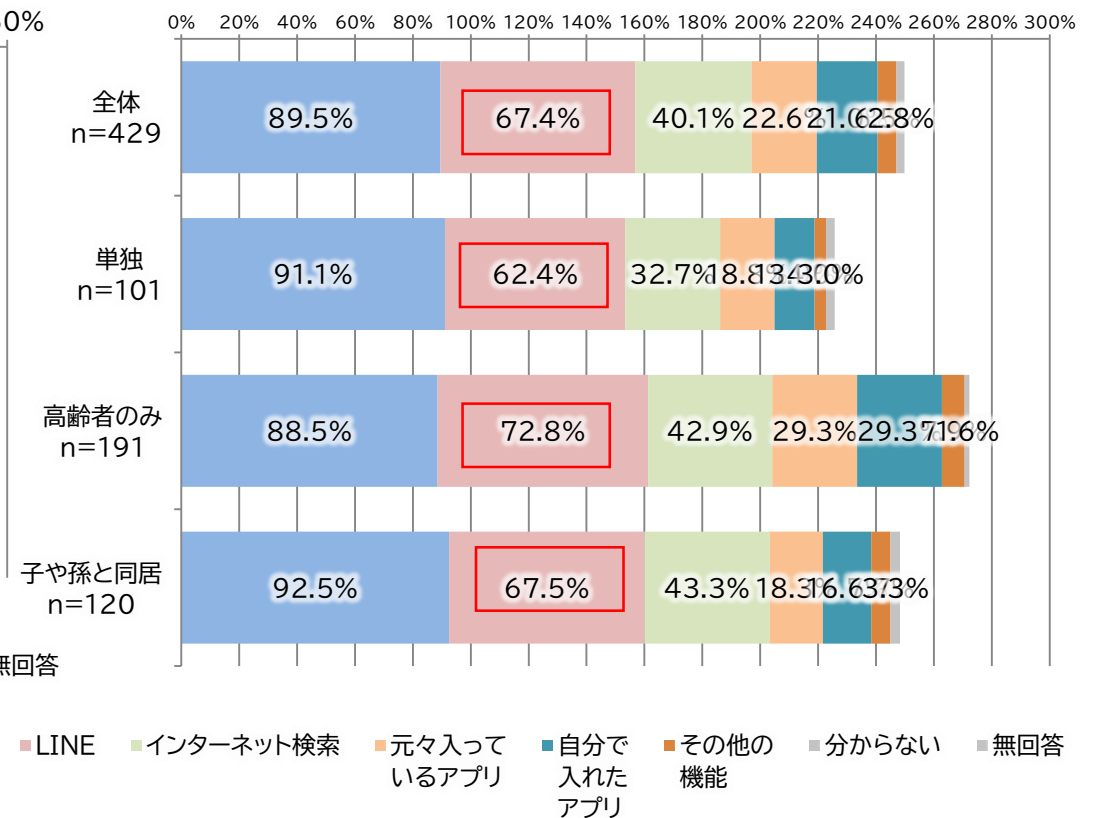
イ アンケート調査等

(イ)高齢者アンケートの結果

持っているデジタル機器



使っている機能



(1)現状と課題の分析について

イ アンケート調査

(イ)高齢者アンケートの結果

電車やバスを移動手段として選ばない場面

